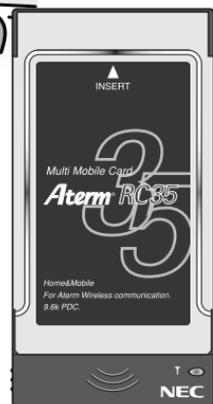


NEC

Aterm[®] *RC35* 取扱説明書

マルチモバイルカード
Aterm RC35 (PC-IW/RC35)



輸出する際の注意事項

本製品（ソフトウェアを含む）は日本国内仕様であり、外国の規格などには準拠していません。本製品を日本国外で使用された場合、当社は一切責任を負いません。また、当社は本製品に関し、海外での保守サービスおよび技術サポートなどはおこなっていません。

ご注意

- (1) 本書の一部または全部を無断転載、無断複写することは禁止されています。
- (2) 本書の内容については、将来予告なしに変更することがあります。
- (3) 本書の内容については万全を期して作成いたしました。が、万一ご不審な点や誤り、記載漏れなどお気づきの点がありましたらご連絡ください。
- (4) 本装置の故障、誤動作、不具合、あるいは停電などの外部要因によって、通信などの機会を逸したために生じた損害などの純粋経済損失につきましては、当社は一切その責任を負いかねますので、あらかじめご了承ください。

Windows、WindowsCE は米国 Microsoft Corporation の米国及び、その他の国における登録商標です。

Netscape Navigator は米国 Netscape Communications Corporation の登録商標です。

その他の各会社名、各製品名は各社の商標または登録商標です。

© NEC Corporation 2000

日本電気株式会社の許可なく複製、改変などをおこなうことはできません。

はじめに

エータムアルシー

このたびは AtermRC35 (以下 RC35 と称します) をお買い上げいただきありがとうございます。

RC35 は、Aterm のワイヤレスシリーズ親機にワイヤレス子機として接続できるマルチモバイルカードです。ワイヤレスシリーズ親機があれば、家中どこからでも面倒な配線なしでインターネットに接続できます。

また、NTT DoCoMo の携帯電話またはドッチーモ (携帯電話通信として) とつないでデータ通信カードとしてお使いになれますので、外出先でもインターネットに接続することができます。

本装置を使用するにはワイヤレスシリーズ親機 (AtermWM56、IW50/D、WX1、IW60、IW60HS DSU) または本装置に接続可能な NTT DoCoMo の携帯電話またはドッチーモが必要です。

RC35 をワイヤレス子機としてご使用になるには増設登録 (ID 登録) が必要です。登録はお近くの NEC サービスステーションまたは PC クリーンスポット、お買い上げいただいた販売店で有料にて承りますのでご相談ください。販売店によっては受け付けていない場合がありますので電話でご確認ください。

本装置をご使用の前に、本書を必ずお読みください。また、本書は読んだあとも大切に保管してください。

安全に正しくお使いいただくために

安全に正しくお使いいただくための表示について

本書には、あなたや他の人々への危害や財産への損害を未然に防ぎ、本装置を安全に正しくお使いいただくために守っていただきたい事項を示しています。その表示と図記号の意味は次のようになっています。

-  **警告** : 人が死亡する、または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。
-  **注意** : 人が損害を負う可能性が想定される内容、および物的損害のみの発生が想定される内容を示しています。
-  **お願い** : 本装置の本来の性能を発揮できなかったり、機能停止をまねく内容を示しています。

絵表示の例

-  記号は禁止の行為であることを告げるものです。図の中に具体的な禁止内容(左図の場合は分解禁止)が描かれています。
-  記号は行為を強制したり指示する内容を告げるものです。図の中に具体的な指示内容(左図の場合は電源プラグをコンセントから抜く)が描かれています。

警告

こんなときは

発煙した場合

万一、煙が出ている、変な臭いがするなどの異常状態のまま使用すると、火災・感電の原因となります。すぐに本装置を装着しているパソコンの電源プラグをコンセントから抜いて、電源をOFFにしてください。煙が出なくなるのを確認してから、ご購入店またはNECサービスステーションに修理をご依頼ください。お客様による修理は危険ですので、絶対におやめください。



⚠ 警告

水がかかった場合

万一、水などがかった場合は、すぐに本体を接続しているパソコンの電源プラグをコンセントから抜いて、電源をOFFにしてください。ご購入店またはNECサービスステーションにご連絡ください。そのまま使用すると漏電して、火災・感電の原因となります。



破損した場合

パソコンに本装置を装着しているときに万一、落したり破損した場合は、すぐに本体を接続しているパソコンの電源プラグをコンセントから抜いて、電源をOFFにしてください。ご購入店またはNECサービスステーションに修理をご依頼ください。そのまま使用すると、火災・感電の原因となることがあります。本装置を破損した場合は、パソコンに装着しないでください。



禁止事項

分解・改造の禁止

本装置を分解・改造しないでください。火災・感電の原因となります。

ぬらすことの禁止

本装置に水が入ったりぬらしたりしないようご注意ください。漏電して火災・感電の原因となります。

ぬれた手での操作禁止

ぬれた手で本装置を操作したり、接続したりしないでください。感電の原因となります。



設置場所

使用禁止区域での注意

航空機内や病院内などの携帯電話の使用を禁止された区域では、本装置の電源を切ってください。電子機器や医用機器に影響を与え、事故の原因となります。



警告

ペースメーカを装着されている方の注意
植え込み型心臓ペースメーカを装着されている方は、本装置をペースメーカ装着部から22cm以上離して使用してください。電波により影響を受ける恐れがあります。



注意

禁止事項

乗ることの禁止
本装置の上に乗らないでください。特に、小さなお子さまのいるご家庭ではご注意ください。壊れてけがの原因となることがあります。



その他のご注意

雷のときの注意
雷が鳴りだしたら、本体に接続されているパソコンの電源コードに触れたり周辺機器の接続をしたりしないでください。落雷による感電の原因となります。



お願い

動作中に接続コード類がはずれたり、接続が不安定になると誤動作の原因となります。動作中は、コネクタの接続部には絶対に触れないでください。

本装置を安全に正しくお使いいただくために、次のような所での使用は避けてください。

- ・ほこりや振動が多い場所
- ・気化した薬品が充満した場所や、薬品に触れる場所
- ・強い磁界を発生する装置が近くにある場所
- ・高周波雑音を発生する高周波マシン、電気溶接機などが近くにある場所

テレビやラジオにノイズが入ることがあります。またコードレス電話や携帯電話などで通話中のときにノイズが入ることがあります。その場合は本装置から距離をおいてご使用ください。

ワイヤレスシリーズ親機と本装置の距離が近すぎると、通話にノイズが入ったりデータ通信でエラーが発生する場合があります。

本装置とコードレス電話機の距離が近すぎると通信が切れる場合があります。

日ごろのお手入れ

汚れたら、乾いた柔らかい布でふきとってください。汚れのひどいときは、中性洗剤を含ませた布でふいたあと、乾いた布でふきとってください。化学ぞうきんの使用は避けてください。ベンジン、シンナーなどの有機溶剤、アルコールは絶対に使用しないでください。変形や変色の原因となることがあります。

お知らせ

本装置プラスチック部品の一部に、光の具合によってはキズに見える部分があります。プラスチック部品の製作過程で生じることがあるもので、構造上及び機能上は問題ありません。

本書について

本書は以下の構成になっています。

2～4章はお使いの環境に応じて必要な章をお読みください。

章		内容
1章	ご使用前に	RC35の利用方法の紹介と、各部の名前や確認していただきたいことを説明します。
2章	Windows95/Windows98をお使いの方は	Windows95/Windows98を搭載したパソコンにRC35をつないでインターネットに接続する手順を説明します。
3章	Windows2000をお使いの方は	Windows2000を搭載したパソコンにRC35をつないでインターネットに接続する手順を説明します。
4章	WindowsCEをお使いの方は	WindowsCEを搭載したモバイルギアにRC35をつないでインターネットに接続する手順を説明します。
5章	困ったときには	「接続ができない」などのトラブルが起きたときの解決方法と、お問い合わせ先を紹介します。
6章	付録	ワイヤレス子機間で内線データ通信する場合の設定や、ATコマンド、用語などを紹介します。

目次

はじめに	1
安全に正しくお使いいただくために	2
本書について	6
1. ご使用の前に	9
1-1. RC35 ができること	10
1-2. お使いになる前に	14
1-3. 箱の中身を確認する	16
1-4. 各部の名前とはたらき	17
2. Windows 95/Windows 98 をお使いの方は	19
2-1. RC35 を接続する	20
2-2. モデム情報ファイルをインストールする	22
2-3. ネットワークの設定をする	28
2-4. らくらくウィザードで設定する	35
2-5. らくらくウィザードを使わないで設定する	49
2-6. インターネットに接続する	55
3. Windows 2000 をお使いの方は	61
3-1. RC35 を接続する	62
3-2. モデム情報ファイルをインストールする	65
3-3. らくらくウィザードで設定する	72
3-4. らくらくウィザードを使わないで設定する	87
3-5. インターネットに接続する	96

4. WindowsCE をお使いの方は	101
4-1. RC35 を接続する	102
4-2. ネットワークの設定をする	104
4-3. インターネットに接続する	111
5. 困ったときには	113
5-1. 困ったときのQ & A	114
5-2. Aterm についてのお問い合わせ	119
5-3. アフターサービス	122
5-4. PC クリーンスポット	127
6. 付録	131
6-1. 接続する親機を選択	132
6-2. 内線データ通信	133
6-3. ハイパーターミナルを使う	139
6-4. AT コマンド	142
6-5. RC35 をバージョンアップする	165
6-6. RC35 仕様	173
6-7. 用語集	174
索引	177

1 . ご使用の前に

RC35 の利用方法の紹介と、各部の名前や確認していただきたいことを説明します。

RC35 できること



お使いになる前に



箱の中身を確認する



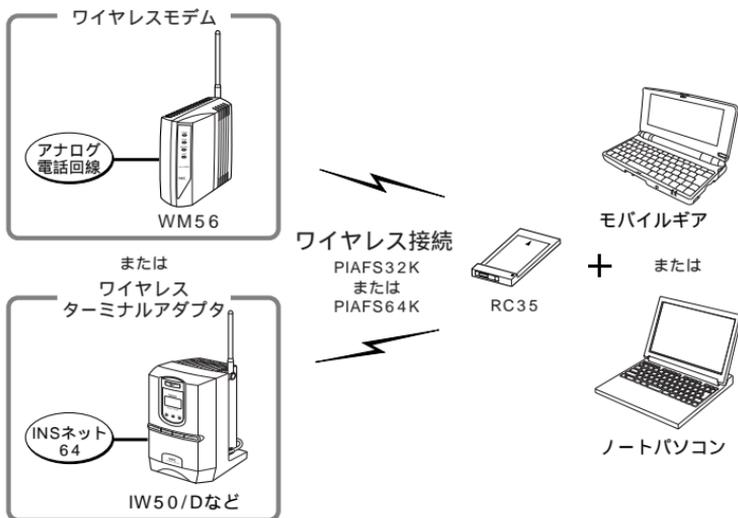
各部の名前とはたらき

1-1. RC35 できること

RC35 は、ワイヤレスシリーズ親機 (AtermWM56、IW50/D、WX1、IW60、IW60HS DSU) の子機として使用できるマルチモバイルカードです。家では親機経由でアナログ電話回線またはINS ネット 64 からインターネットに接続、外出先では携帯電話でインターネットに接続、といった使い分けができます。

親機経由でインターネットに接続する

RC35 の無線機能でワイヤレスシリーズ親機を経由し、アナログ電話回線またはINS ネット 64 に接続できます。



RC35 に対応するワイヤレスシリーズ親機

(平成 12 年 3 月現在)

ワイヤレスシリーズ親機	接続回線	無線区間の通信速度 (親・子機間)	回線経由での最高実効速度
AtermWM56	アナログ電話回線	PIAFS32K または PIAFS64K	受信時56kbps 送信時33.6kbps
AtermIW50/D			58.4kbps
AtermWX1 AtermIW60 AtermIW60HS DSU	INSネット64	PIAFS32K	29.2kbps



接続の確認ができていないモバイルギア はWindowsCE3.0を搭載した NEC MC-R700、MC-R520、MC/R320 です。(平成 12 年 3 月現在)

接続の実効速度はパソコンやプロバイダ、無線区間の電波状態などによって変動します。

AtermWM56 は回線の状況によって通信速度が変化します。

着信のときは相手からの通信速度を自動的に判別して着信します。

ワイヤレスシリーズ親機から RC35 に電波が届く範囲は、間に障害物が何もない状態で約 100m です。鉄筋壁、防音壁、断熱壁などの設置環境によっては 100m 以内でも電波が届かない場合があります。

「」使用の前に

Windows95/Windows98
をお使いの方は

Windows2000
をお使いの方は

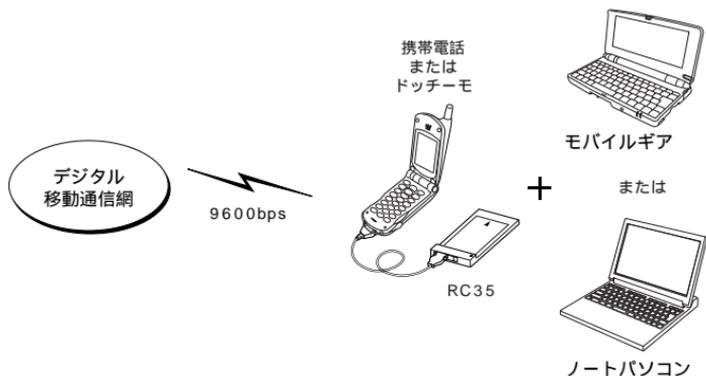
WindowsCE
をお使いの方は

困ったときには

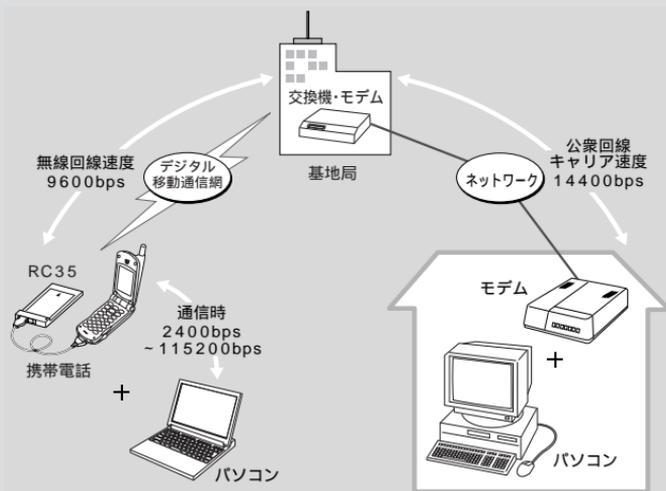
付録

携帯電話でインターネットに接続する

RC35に携帯電話またはドッチーモをつなぎ、デジタル移動通信網を経由して9600bpsの速度でインターネットに接続できます。



RC35にドッチーモを接続した場合、ドッチーモは携帯電話として機能します。
携帯電話を用いた9600bps通信はアナログモデムに直接ダイヤルして通信をおこなうことができます。



パケット通信はできません。

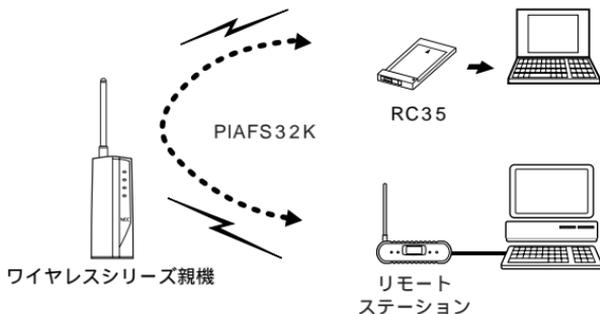
内線データ通信をする

ワイヤレスシリーズ親機を介して、AtermRS20 などのリモートステーションと内線データ通信ができます。(「6-2. 内線データ通信」 P.133)

親・子機間通信



子機間通信



1 使用の前に

Windows95/Windows98
をお使いの方は

Windows2000
をお使いの方は

WindowsCE
をお使いの方は

困ったときには

付録



着信のときは相手からの通信速度を自動的に判別して着信します。

1-2. お使いになる前に

RC35をお使いになる前に、以下の確認をしてください。

親機経由で使うには

増設登録

ワイヤレスシリーズ親機の子機としてRC35を登録する増設登録(ID登録)が必要です。増設登録はNECサービスステーション(P.124)または販売店・PCクリーンスポット(P.127)で有料にて承っておりますので、お問い合わせください。

無線ポートの設定

ワイヤレスシリーズ親機で無線ポートの設定をします。IW50/Dの場合にこの設定をおこなうと、RC35でプロトコル変換モードまたはPIAFSスルーモードの接続ができるようになります。設定をしないと、プロトコル変換モードでの接続になります。

詳細はお使いになるワイヤレスシリーズ親機の取扱説明書を参照してください。



1台のRC35を最大4台のワイヤレスシリーズ親機の子機として増設登録できます。ただし、同時に通信が可能なワイヤレスシリーズ親機は1台です。(「6-1. 接続する親機を選択」 P.132)



1台のワイヤレスシリーズ親機に同一のRC35を重複して増設登録しないでください。

携帯電話を接続して使うには

接続する携帯電話またはドッチャーモの機種を確認してください。接続できる機種は、下記でご確認ください。

「AtermStation」ホームページ <http://aterm.cplaza.ne.jp/>

(平成12年3月現在)

インターネットに接続するには

プロバイダとの契約

インターネットに接続するには、インターネット接続代行業者（プロバイダ）との契約が必要です。インターネットの設定は、プロバイダに指定されたユーザ設定情報などの資料の内容を設定します。

申し込み方法などの詳細はプロバイダにお問い合わせください。

ホームページを表示するソフトウェア

ホームページを表示するには、『Internet Explorer（インターネット・エクスプローラ）』や『Netscape Navigator（ネットスケープ・ナビゲータ）』などのブラウザソフトが必要です。ブラウザソフトはパソコンまたはモバイルギア に添付されている場合がありますので、確認してください。

詳細はソフトウェアメーカーにお問い合わせください。

電子メールを送受信するソフトウェア

電子メールを送受信するには、『Outlook Express（アウトルック・エクスプレス）』などの電子メールソフトが必要です。電子メールソフトはパソコンまたはモバイルギア に添付されている場合がありますので、確認してください。

詳細はソフトウェアメーカーにお問い合わせください。

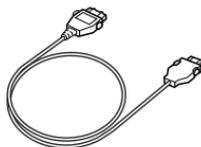
1-3. 箱の中身を確認する

箱を開けたら次のものがそろっているか確認してください。不足しているものがありましたら、お買い上げいただいた販売店にご連絡ください。

AtermRC35 本体



携帯電話接続ケーブル

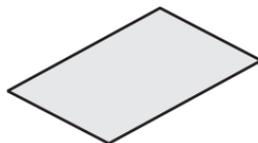


携帯電話またはドッチーモとRC35を接続するケーブルです。

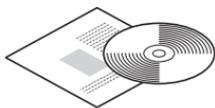
取扱説明書（本書）



保証書

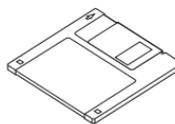


CD-ROM
「AtermRC35 ユーティリティ集」



Windows95/98/2000のパソコンで設定するためのソフトウェアが保存されています。

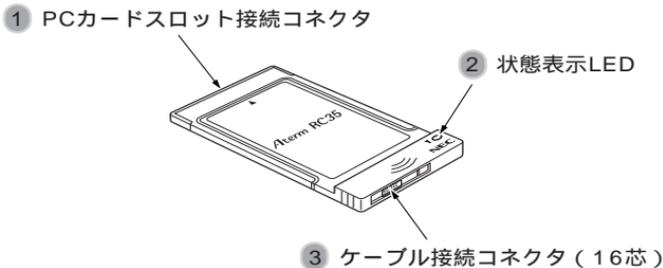
フロッピーディスク
「モデム情報ファイル」



Windows95/98/2000用のモデム情報ファイルが保存されています。

1-4. 各部の名前とはたらき

RC35 本体

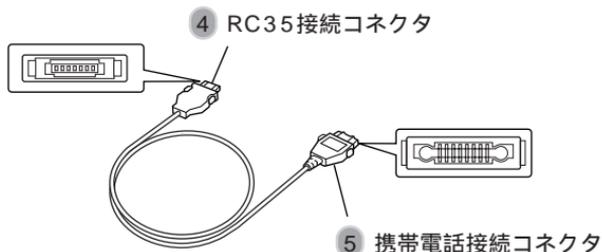


- 1 PCカードスロット接続コネクタ
パソコンまたはモバイルギア のPCカードスロット(Type)に接続するコネクタです。
- 2 状態表示LED
RC35の状態をランプで表示します。
- 3 ケーブル接続コネクタ(コネクタカバー付き)
携帯電話接続ケーブルをつなぐコネクタです。
ケーブルを接続するときは、コネクタカバーを外してケーブルを差します。

LED ランプの表示

LEDランプの状態	通信状態
赤色ではやく点滅 (0.2秒おきに点灯 / 消灯)	発信中
	着信中
	通信中で電波状態が悪いとき
赤色でゆっくりと点滅 (1秒おきに点灯 / 消灯)	電波状態が悪いとき
赤色で点灯	通信中
	切断したとき
	待機中 (圏内のとき)
消灯	圏外のとき
	パソコンまたはモバイルギアIIからRC35に電源が供給されていないとき

携帯電話接続ケーブル



- 4 RC35 接続コネクタ
RC35 本体のケーブル接続コネクタに差します。
- 5 携帯電話接続コネクタ
携帯電話またはドッチーモのケーブル接続コネクタに差します。

2. Windows 95/Windows 98 を お使いの方は

Windows 95/Windows 98を搭載したパソコンにRC35をつないでインターネットに接続する手順を説明します。

RC35 を接続する

モデム情報ファイルをインストールする

ネットワークの設定をする

らくらくウィザードで設定する

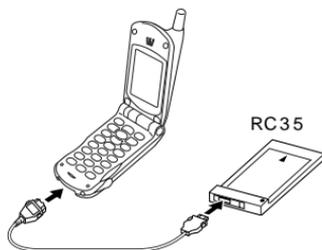
インターネットに接続する

2-1. RC35 を接続する

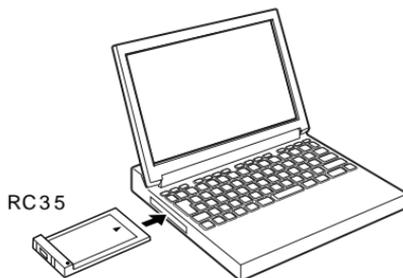
RC35 とパソコンを接続する

RC35 は、PCMCIA2.1/JEIDA V4.2 以降に対応した PCMCIA Type スロットを搭載している Windows® 95/Windows® 98 のパソコンに接続できます。

- 1 RC35 を接続するパソコンを起動します。
ワイヤレスシリーズ親機(AtermWM56、IW50/D、WX1、IW60、IW60HS DSU)を経由して接続するときは、③に進みます。
- 2 携帯電話またはドッチーモとRC35を添付の携帯電話接続ケーブルで接続します。



- 3 パソコンの PC カードスロットに RC35 を取り付けます。
RC35 に書かれている の方向に、奥までしっかりと差し込んでください。



モデム情報ファイルがすでにインストールされている場合は、タスクトレイに PC カードアイコンが表示されます。

モデム情報ファイルをインストールしていない場合は、「2-2. モデム情報ファイルをインストールする」(P.22)に進みます。

RC35 の取り外しかた

- ① タスクトレイの PC カードアイコンをクリックし、[AtermRC35 の中止] を選択します。



「このデバイスは安全に取りはずせます。」と表示されます。

「このデバイスは取りはずせません」と表示された場合は、RC35 を使用しているアプリケーションソフトを終了してからもう一度 ① の操作をおこなってください。

- ② ボタンをクリックします。



- ③ RC35 の LED ランプが消えたことを確認し、パソコンの PC カードスロットの取り出しボタンを押して RC35 を取り出します。



お願い

RC35 の設定をするときには、RC35 をパソコンに取り付けた状態で設定してください。

携帯電話を接続して使用する場合は、RC35 と携帯電話を接続した状態でパソコンに取り付けてください。RC35 を先にパソコンに取り付けた状態で携帯電話の接続をすると、正しく認識されないことがあります。

PC カードスロットの取り扱いについては、お使いのパソコンの取扱説明書を参照してください。

2-2. モデム情報ファイルをインストールする

モデム情報ファイルをパソコンにインストールし、RC35を「使用するモデム」として設定します。添付のフロッピーディスク『モデム情報ファイル』、またはCD-ROM『AtermRC35 ユーティリティ集』を用意してください。

Windows 98 をお使いの方は

Windows95をお使いの場合は、「Windows95をお使いの方は」(P.25)を参照してください。

- 1 「2-1. RC35を接続する」(P.20)を参照し、RC35をパソコンに取り付けます。

「新しいハードウェアが検出されました。必要なソフトウェアを探しています。」と表示されたあと、[新しいハードウェアの追加ウィザード]画面が表示されます。

- 2 **次へ** ボタンをクリックします。



「検索方法を選択してください。」と表示されます。

- 3 「使用中のデバイスに最適なドライバを検索する」を選択し、**次へ** ボタンをクリックします。



- ④ 添付のフロッピーディスクまたはCD-ROMをパソコンにセットします。
CD-ROMをセットしたあとに「AtermRC35 ユーティリティ集」のメニュー画面が表示された場合は、メニュー画面の「終了」ボタンをクリックして「AtermRC35 ユーティリティ集」を終了させます。
- ⑤ 「フロッピーディスクドライブ」または「CD-ROMドライブ」をクリックして☑にします。



モデム情報ファイルを検索するドライブ（④でセットしたドライブ）を選択します。

- ⑥ 「次へ」ボタンをクリックします。
「次のデバイス用のドライバファイルを検索します。」と表示されます。
- ⑦ 画面に「AtermRC35」と表示されていることを確認し、「次へ」ボタンをクリックします。



「AtermRC35」と表示されない場合は⑤でモデム情報ファイルを検索するドライブを正しく指定したかを確認してください。

「新しいハードウェアデバイスに必要なソフトウェアがインストールされました。」と表示されます。

⑧ **完了** ボタンをクリックします。



モデム情報ファイルのインストールが終了します。

「2-3. ネットワークの設定をする」(P.28)に進みます。

- ① 「2-1. RC35を接続する」(P.20)を参照し、RC35をパソコンに取り付けます。
「新しいハードウェアが検出されました。必要なソフトウェアを探しています。」と表示されます。
- ② このあとの手順はWindows95のバージョンによって異なります。次のどちらかを実行します。
[デバイスドライバウィザード] 画面が表示された場合
[新しいハードウェア] 画面が表示された場合 (P.26)

[デバイスドライバウィザード] 画面が表示された場合

- ① 添付のフロッピーディスクまたはCD-ROMをパソコンにセットします。
CD-ROMをセットしたあとに「AtermRC35ユーティリティ集」のメニュー画面が表示された場合は、メニュー画面の **終了** ボタンをクリックして「AtermRC35ユーティリティ集」を終了させます。
- ② **次へ** ボタンをクリックします。



「AtermRC35」のドライバが検出されます。

- ③ [完了] ボタンをクリックします。

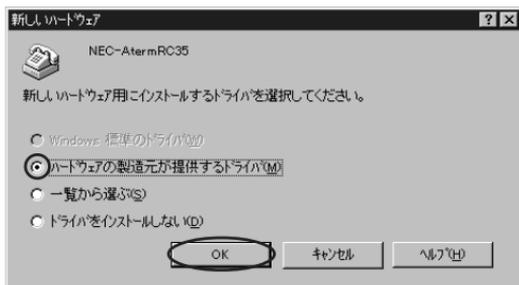


モデム情報ファイルのインストールが終了します。

「2-3. ネットワークの設定をする」(P.28)に進みます。

[新しいハードウェア] 画面が表示された場合

- ① 「ハードウェアの製造元が提供するドライバ」を選択して [OK] ボタンをクリックします。

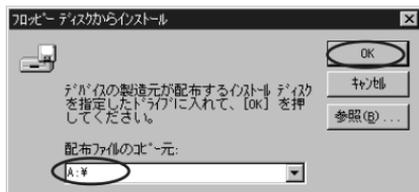


[フロッピーディスクからのインストール] 画面が表示されます。

- ② 添付のフロッピーディスクまたはCD-ROMをパソコンにセットします。

CD-ROMをセットしたあとに「AtermRC35ユーティリティ集」のメニュー画面が表示された場合は、メニュー画面の [終了] ボタンをクリックして「AtermRC35ユーティリティ集」を終了させます。

- ③ 「配布ファイルのコピー元」にフロッピーディスクまたはCD-ROMをセットしたドライブを指定して **OK** ボタンをクリックします。



モデム情報ファイルのインストールが終了します。

「2-3. ネットワークの設定をする」(P.28)に進みます。

2-3. ネットワークの設定をする

インターネットにダイヤルアップ接続をするための設定をします。

ダイヤルアップネットワークの確認

「ダイヤルアップネットワーク」がパソコンにインストールされているか確認します。ダイヤルアップネットワークがすでにインストールされている場合は、「ネットワークプロトコルの設定」(P.31)に進みます。

- 1 「2-1. RC35を接続する」(P.20)を参照し、RC35をパソコンに取り付けます。
- 2 デスクトップの[マイコンピュータ]アイコンをダブルクリックします。



マイコンピュータ

[マイコンピュータ]アイコンは図と異なることがあります。

[マイコンピュータ]ウィンドウが表示されます。

- 3 [ダイヤルアップネットワーク]アイコンがあるか確認します。



ダイヤルアップ
ネットワーク

[ダイヤルアップネットワーク]アイコンがある場合は、「ネットワークプロトコルの設定」(P.31)に進みます。

「ダイヤルアップネットワーク」アイコンがない場合

ダイヤルアップネットワークをパソコンに組み込みます。

Windows 98 を例に説明します。お使いの環境によっては画面が異なることがあります。

- ① Windows98 の CD-ROM を CD-ROM ドライブにセットします。
Windows98が初めからインストールされているパソコンのほとんどは、ハードディスクにCD-ROMの内容がコピーされています。この場合はCD-ROMをセットする必要はありません。

- ②  [設定] [コントロールパネル] を選択します。

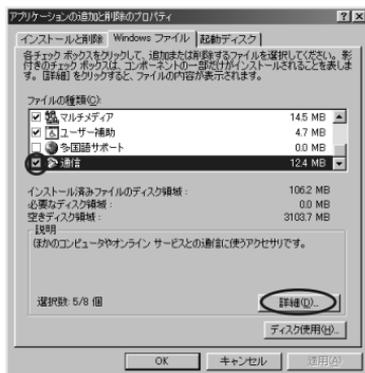
- ③ [アプリケーションの追加と削除] アイコンをダブルクリックします。



[アプリケーションの追加と削除のプロパティ] 画面が表示されます。

- ④ [Windows ファイル] タブをクリックします。

- ⑤ 「ファイルの種類」の中の「通信」が になっている状態で「通信」を選択し、 ボタンをクリックします。



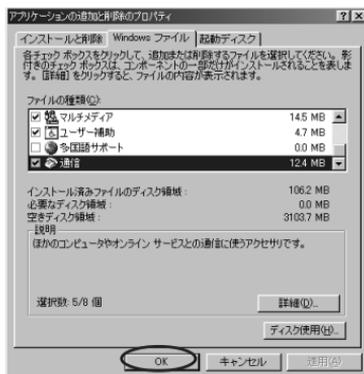
[通信] 画面が表示されます。

- ⑥ 「ダイヤルアップネットワーク」をクリックして にし、 ボタンをクリックします。



[アプリケーションの追加と削除のプロパティ] 画面にもどります。

- ⑦ ボタンをクリックします。



インストールが完了し、[コントロールパネル] ウィンドウにもどります。

- ⑧ パソコンを再起動します。

ネットワークプロトコルの設定

インターネットにダイヤルアップ接続するには、次の3つのネットワークコンポーネントが必要です。

Microsoft ネットワーククライアント
ダイヤルアップアダプタ
TCP/IP

パソコンにこれらが組み込まれているか確認し、足りないものがある場合は追加します。

①  [設定] [コントロールパネル] を選択します。

② [ネットワーク] アイコンをダブルクリックします。



ネットワーク

[ネットワーク] アイコンは図と異なることがあります。

[ネットワーク] 画面が表示されます。

- ③ 「現在のネットワークコンポーネント」に Microsoft ネットワーククライアント、ダイヤルアップアダプタ、TCP/IP があるか確認します。



例 この図の場合は「TCP/IP」が不足しています。

3つのコンポーネントがすでに組み込まれている場合は、ネットワークプロトコルの設定は必要ありません。「2-4. らくらくウィザードで設定する」(P.35)に進みます。

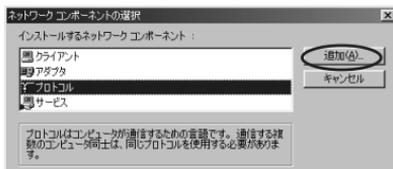
いずれかが不足している場合は、④に進みます。

- ④ **追加** ボタンをクリックします。

[ネットワークコンポーネントの選択] 画面が表示されます。

- ⑤ ③で不足していたものによってそれぞれ以下のコンポーネントを選択し、**追加** ボタンをクリックします。

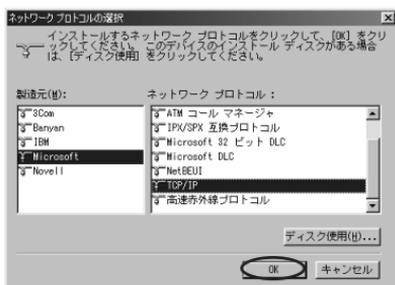
Microsoft ネットワーククライアントを追加する場合 クライアント
ダイヤルアップアダプタを追加する場合 アダプタ
TCP/IP を追加する場合 プロトコル



これ以降、TCP/IP の追加を例に説明します。

[ネットワークプロトコルの選択] 画面が表示されます。

- 6 「製造元」の中から「Microsoft」を選択して「ネットワークプロトコル」の中の「TCP/IP」を選択し、**OK** ボタンをクリックします。



[ネットワーク] 画面にもどります。

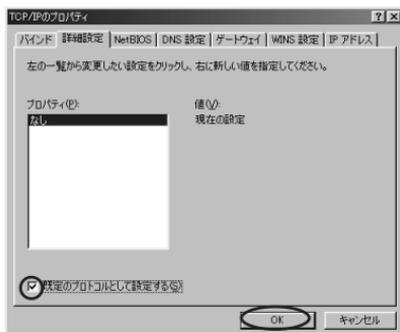
- 7 「TCP/IP」を選択し、**プロパティ** ボタンをクリックします。



[TCP/IP のプロパティ] 画面が表示されます。

- 8 [詳細設定] タブをクリックします。

- 9 「既定のプロトコルとして設定する」がグレーで表示されていたら、そのままにします。はっきりと表示されている場合は になっていることを確認し、 ボタンをクリックします。



[ネットワーク] 画面にもどります。

- 10 ボタンをクリックします。



- 11 「再起動しますか」と表示されるので ボタンをクリックし、パソコンを再起動します。

「2-4. らくらくウィザードで設定する」(P.35)に進みます。

2-4. らくらくウィザードで設定する

添付CD-ROM『AtermRC35ユーティリティ集』に収録されている『RC35らくらくウィザード』を使うと、インターネットに接続するための下記の設定が画面に表示される案内にそって簡単にできます。

ワイヤレスシリーズ親機経由で接続するか、携帯電話で接続するかの選択

ワイヤレスシリーズ親機を経由する場合の親機の機種の種類を選択

プロバイダの設定

ワイヤレスシリーズ親機とRC35の無線区間の通信速度と、アクセスポイントへの通信速度の設定

CD-ROMドライブが使用できない場合など、RC35らくらくウィザードを使わないで設定するには、「2-5. らくらくウィザードを使わないで設定する」(P.49)を参照してください。

らくらくウィザードのインストール

添付CD-ROM『AtermRC35ユーティリティ集』に収録されている『RC35らくらくユーティリティ』をパソコンにインストールします。

Windows98を例に説明します。お使いの環境によっては、手順や画面が異なることがあります。

1 「2-1. RC35を接続する」(P.20)を参照し、RC35をパソコンに取り付けます。

2 添付CD-ROM『AtermRC35ユーティリティ集』をパソコンにセットします。

「AtermRC35ユーティリティ集」のメニュー画面が表示されます。

すでにCD-ROMがセットされていた場合は、いったんCD-ROMを取り出してから再度セットしてください。

CD-ROMをセットしてもメニュー画面が表示されないときは「ファイル名を指定してインストールする」(P.39)を参照してください。

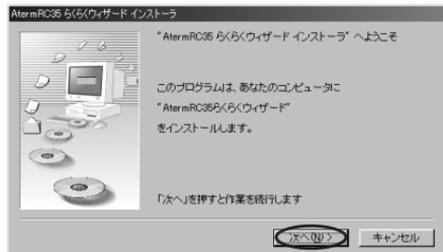
- ③ RC35 らくらくウィザード ボタンをクリックします。



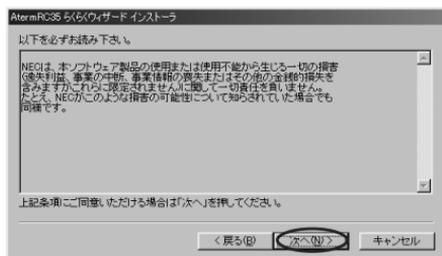
- ④ 次へ ボタンをクリックします。



- ⑤ 次へ ボタンをクリックします。



- 6 画面に表示されている内容を読んでから **次へ** ボタンをクリックします。

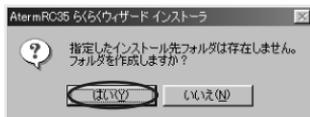


- 7 らくらくウィザードのインストール先を指定します。表示されているインストール先でよければそのままにします。変更する場合は **参照** ボタンをクリックし、インストール先を指定します。



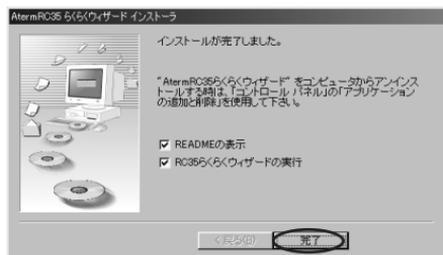
- 8 **次へ** ボタンをクリックします。

次の画面が表示された場合は **はい** ボタンをクリックします。



「インストールが完了しました。」と表示されます。

⑨ **完了** ボタンをクリックします。



RC35 らくらくウィザードが起動します。

「README の表示」を にしておく、と、メモ帳が起動してらくらくウィザードについての説明が表示されます。内容を確認したらメモ帳を終了します。

らくらくウィザードでの設定を続けておこなわない場合は、「RC35 らくらくウィザードの実行」をクリックして にします。

「らくらくウィザードで設定する」の ③ (P.40) に進みます。

ファイル名を指定してインストールする

CD-ROMをセットしても「AtermRC35ユーティリティ集」のメニュー画面が表示されないときは、以下の手順でインストールを実行してください。

- 1 **スタート** [ファイル名を指定して実行] を選択します。
[ファイル名を指定して実行] 画面が表示されます。

- 2 「名前」に半角文字で次のように入力します。

Q: ¥UTIL¥RC35WIZ¥RCSetup.exe

CD-ROM ドライブ名を指定



- 3 **OK** ボタンをクリックします。

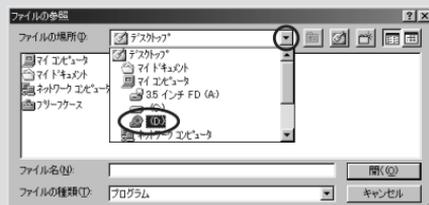
らくらくウィザードのインストールがはじまります。



CD-ROMのドライブ名はパソコンによって異なります。ドライブ名がわからないときは、次の操作でCD-ROMドライブを確認します。

- 1 [ファイル名を指定して実行] 画面で **参照** ボタンをクリックします。
[ファイルの参照] 画面が表示されます。

- 2 「ファイルの場所」の ▼ をクリックし、CD-ROMドライブを選択します。



- 3 ドライブ名を確認したら **キャンセル** ボタンをクリックします。

らくらくウィザードで設定する

- ① ほかのアプリケーションを使用しているときは、そのアプリケーションを終了します。

- ② **スタート** [プログラム] [AtermRC35らくらくウィザード] [RC35らくらくウィザード]を選択します。

RC35らくらくウィザードが起動し、[RC35らくらくウィザードによる]画面が表示されます。

- ③ **次へ** ボタンをクリックします。



[設定を始める前に]画面が表示されます。

- ④ **次へ** ボタンをクリックします。



[接続COMポート]画面にRC35の接続されているCOMポートが表示されます。

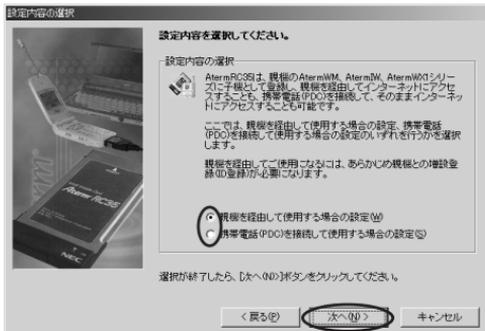
5 次へ ボタンをクリックします。



[設定内容の選択] 画面が表示されます。

この画面で「AtermRC35が接続されているCOMポートが見つかりません。」と表示されたときは、RC35が正しく認識されていません。画面に表示されている内容を確認してください。それでもRC35が認識されない場合は、「6-3. ハイパーターミナルを使う」(P.139)を参照し、ATコマンドを使って接続の確認をしてください。

6 親機経由で使用するか携帯電話を接続するか選択します。



7 次へ ボタンをクリックします。

8 6 でどちらを選択したかによって、それぞれ次の手順へ進みます。

親機を経由して使用する場合の設定

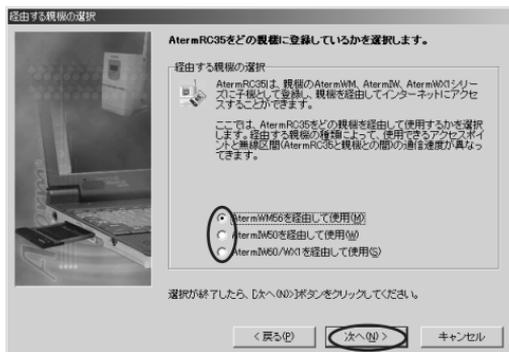
..... 「親機経由でインターネットに接続する」(P.42)

携帯電話を接続して使用する場合の設定

..... 「携帯電話でインターネットに接続する」(P.46)

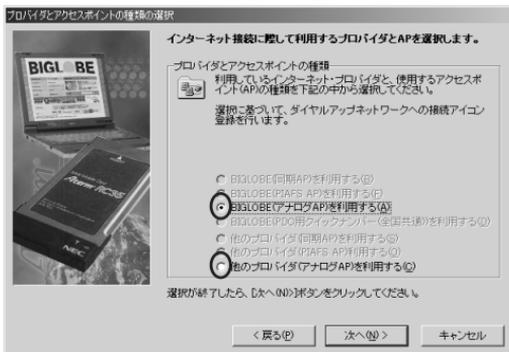
親機経由でインターネットに接続する

- ① [経由する親機の選択] 画面に表示されている機種名の中から RC35 を増設登録しているワイヤレスシリーズ親機を選択し、**次へ** ボタンをクリックします。



[プロバイダとアクセスポイントの種類の選択] 画面が表示されます。

- ② 契約しているプロバイダと接続するアクセスポイントの種類を選択します。



「同期 AP」は ISDN 同期 64K 用のアクセスポイントです。
『BIGLOBE』は NEC の運営するプロバイダです。BIGLOBE にすでに入会している場合は「BIGLOBE を利用する」を選択します。

- ③ **次へ** ボタンをクリックします。

[接続先の設定] 画面が表示されます。

- ④ プロバイダから指定されたユーザ設定情報などの資料に従って、アクセスポイントとDNSを設定します。

BIGLOBEに接続する場合は「市外局番で最寄りのアクセスポイントを検索」に市外局番を入力すると、最寄りのアクセスポイントの設定が表示されます。

- ⑤ **次へ** ボタンをクリックします。

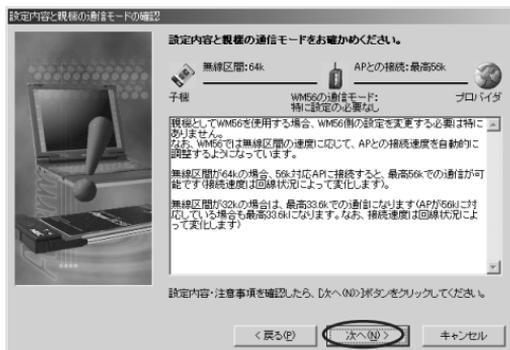
[無線区間速度の選択] 画面が表示されます。

- ⑥ RC35とワイヤレスシリーズ親機との無線区間の通信速度を選択します。

ワイヤレスシリーズ親機が AtermWM56、IW50/D の場合は無線区間の通信速度は32Kまたは64K、WX1、IW60、IW60HS DSU では32Kです。

- ⑦ **次へ** ボタンをクリックします。
[設定内容と親機の通信モードの確認]画面が表示されます。

- ⑧ 設定内容を確認し、**次へ** ボタンをクリックします。



[ダイヤルアップ接続の登録]画面が表示されます。

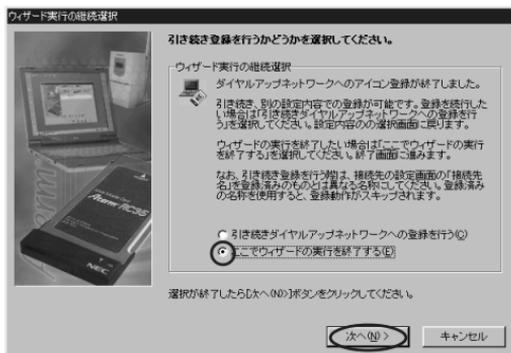
- ⑨ **実行** ボタンをクリックします。



システム登録の実行中はキーボードやマウスの操作をしないでください。

設定内容がパソコンに登録され、[ウィザード実行の継続選択]画面が表示されます。

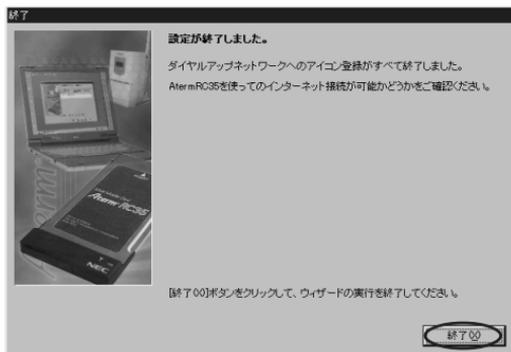
- ⑩ 「ここでウィザードの実行を終了する」を選択し、**次へ** ボタンをクリックします。



親機経由と携帯電話接続を使い分けたいなど、複数の設定を登録するときは「引き続きダイヤルアップネットワークへの登録を行う」を選択します。

[終了]画面になります。

- ⑪ **終了** ボタンをクリックします。



RC35 らしくウィザードが終了します。

- ⑫ 「AtermRC35 ユーティリティ集」のメニュー画面の **終了** ボタンをクリックします。

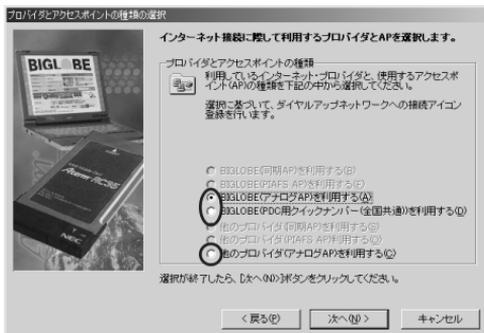
AtermRC35 ユーティリティ集のメニューが終了します。

- ⑬ CD-ROM ドライブのアクセスランプが消えたのを確認し、CD-ROM を取り出します。

「2-6. インターネットに接続する」(P.55)に進みます。

携帯電話でインターネットに接続する

- ① 契約しているプロバイダを選択します。

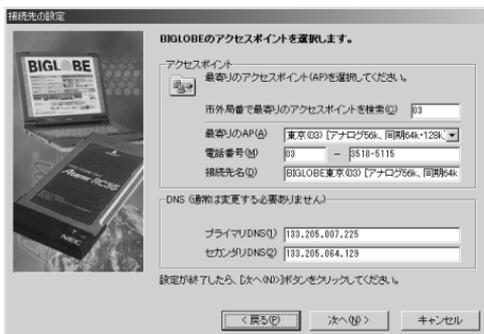


『BIGLOBE』は NEC の運営するプロバイダです。BIGLOBE にすでに加入している場合は「BIGLOBE を利用する」を選択します。

- ② [次へ] ボタンをクリックします。

[接続先の設定] 画面が表示されます。

- ③ プロバイダから指定されたユーザ設定情報などの資料に従って、アクセスポイントと DNS を設定します。



BIGLOBE (アナログAP) に接続する場合は「市外局番で最寄りのアクセスポイントを検索」に市外局番を入力すると、最寄りのアクセスポイントの設定が表示されます。

BIGLOBE (PDC 用クイックナンバー) に接続する場合は、電話番号を入力する必要はありません。

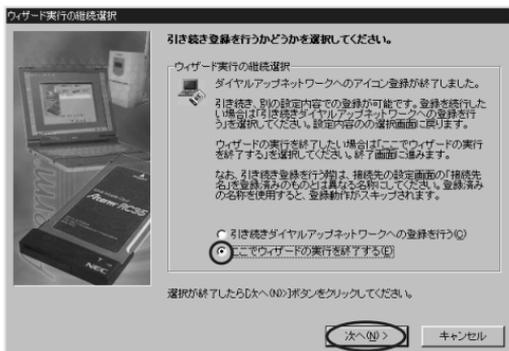
- ④ **次へ** ボタンをクリックします。
[ダイヤルアップ接続の登録] 画面が表示されます。

- ⑤ **実行** ボタンをクリックします。



システム登録の実行中はキーボードやマウスの操作をしないでください。
設定内容がパソコンに登録されます。

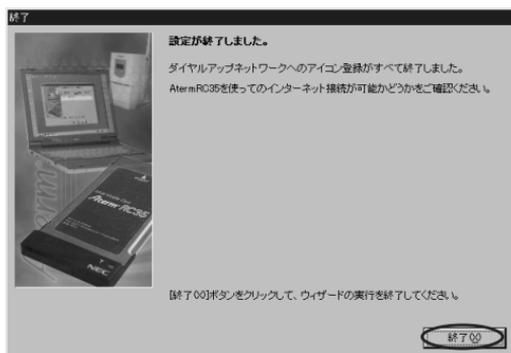
- ⑥ 「ここでウィザードの実行を終了する」を選択し、**次へ** ボタンをクリックします。



親機経由と携帯電話接続を使い分けたいなど、複数の設定を登録するときは「引き続きダイヤルアップネットワークへの登録を行う」を選択します。

[終了] 画面になります。

- ⑦ [終了] ボタンをクリックします。



RC35 らくらくウィザードが終了します。

- ⑧ 「AtermRC35ユーティリティ集」のメニュー画面の [終了] ボタンをクリックします。

AtermRC35 ユーティリティ集のメニューが終了します。

- ⑨ CD-ROM ドライブのアクセスランプが消えたのを確認し、CD-ROM を取り出します。

「2-6. インターネットに接続する」(P.55) に進みます。

2-5. らくらくウィザードを使わないで設定する

CD-ROMドライブが使用できない場合やRC35らくらくウィザードが正しく動作しないときは、RC35 らくらくウィザードを使わないで設定します。

プロバイダの設定

- 1 「2-1. RC35を接続する」(P.20)を参照し、RC35をパソコンに取り付けます。

- 2 デスクトップの[マイコンピュータ]アイコンをダブルクリックします。



マイコンピュータ

[マイコンピュータ]アイコンは図と異なることがあります。

[マイコンピュータ]ウィンドウが表示されます。

- 3 [ダイヤルアップネットワーク]アイコンをダブルクリックします。



ダイヤルアップ
ネットワーク

[ダイヤルアップネットワーク]ウィンドウが表示されます。

- 4 [新しい接続]アイコンをダブルクリックします。



新しい接続

[BIGLOBE]アイコンがすでにある場合は、「2-6. インターネットに接続する」(P.55)に進みます。

[新しい接続]画面が表示されます。

- ⑤ 「接続名」に接続するプロバイダの名前を任意に入力します。
ここでは例として「BIGLOBE64」と入力します。

- ⑥ 「モデムの選択」で「AtermRC35」を選択し、**次へ** ボタンをクリックします。



- ⑦ 「電話番号」に接続するアクセスポイントの電話番号を市外局番から入力します。



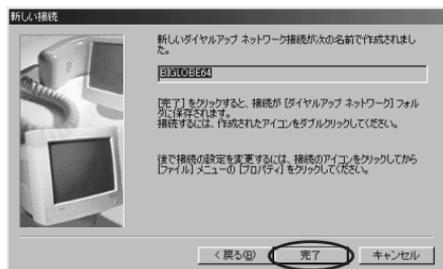
接続方法によって、次のように電話番号を入力します。

経由する機器	親機の設定	無線区間速度	電話番号の指定
IW50/D	PIAFSスルー	32kbps	32K対応PIAFSアクセスポイントの電話番号を入力し、末尾に「PF」をつける
		64kbps	64K対応PIAFSアクセスポイントの電話番号を入力し、末尾に「PD」をつける
	プロトコル変換	32kbps	ISDN同期64Kアクセスポイントの電話番号を入力し、末尾に「PF」をつける
		64kbps	ISDN同期64Kアクセスポイントの電話番号を入力し、末尾に「PD」をつける
WX1 IW60 IW60HS DSU	PIAFSスルー	32kbps	32K対応PIAFSアクセスポイントの電話番号を入力し、末尾に「PF」をつける
	プロトコル変換	32kbps	ISDN同期64Kアクセスポイントの電話番号を入力し、末尾に「PF」をつける
WM56	-	32kbps	アナログアクセスポイントの電話番号を入力し、末尾に「PF」をつける
	-	64kbps	アナログアクセスポイントの電話番号を入力し、末尾に「PD」をつける
携帯電話	-	9600bps	アナログアクセスポイントまたはクイックナンバーの電話番号を入力し、末尾に「PC」をつける



ボタンをクリックします。

- 9 **完了** ボタンをクリックします。



[ダイヤルアップネットワーク] ウィンドウにもどり、5 でつけた名前の接続アイコンができます。



- 10 接続アイコン(例: BIGLOBE64)の上でマウスを右クリックし、[プロパティ] を選択します。



- 11 「市外局番とダイヤルのプロパティを使う」が になっていることを確認します。また「接続の方法」に「AtermRC35」が表示されていることを確認します。



- 12 [サーバーの種類] タブをクリックします。

- 13 「ダイヤルアップサーバーの種類」が「PPP:インターネット、WindowsNT Server、Windows98」となっていることを確認します。

- 14 「詳細オプション」の項目で のものはクリックしてすべて にします。

- 15 「使用できるネットワークプロトコル」で「TCP/IP」だけを にし、その他はクリックして にします。

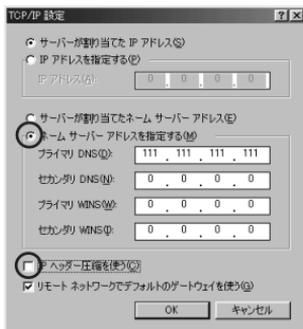
- 16 [TCP/IP 設定] ボタンをクリックします。



[TCP/IP 設定] 画面が表示されます。

- 17 「ネームサーバーアドレスを指定する」を選択し、プロバイダから指定されたユーザ設定情報などの資料に従って、ネームサーバーのIPアドレスを入力します。

- 18 「IP ヘッダー圧縮を使う」を にします。



- 19 ボタンをクリックします。
[サーバーの種類] 画面にもどります。

- 20 ボタンをクリックします。
[ダイアルアップネットワーク] ウィンドウにもどります。

「2-6. インターネットに接続する」(P.55)に進みます。

2-6. インターネットに接続する

接続の確認

プロバイダに電話をかけ、正しく接続できるか確認します。

- 1 インターネットに接続するワイヤレスシリーズ親機または携帯電話を通信できるように準備します。
- 2 「2-1. RC35を接続する」(P.20)を参照し、RC35をパソコンに取り付けます。
- 3 デスクトップの[マイコンピュータ]アイコンをダブルクリックします。



マイコンピュータ

[マイコンピュータ]アイコンは図と異なることがあります。

[マイコンピュータ]ウィンドウが表示されます。

- 4 [ダイヤルアップネットワーク]アイコンをダブルクリックします。



ダイヤルアップ
ネットワーク

[ダイヤルアップネットワーク]ウィンドウが表示されます。

- 5 接続アイコン(例: BIGLOBE64)をダブルクリックします。



BIGLOBE64

[接続]画面が表示されます。

- 6 プロバイダから指定されたユーザ設定情報などの資料に従って、「ユーザー名」と「パスワード」を入力します。



「パスワードの保存」をクリックして にすると、次回の接続からパスワードを入力する必要がなくなります。

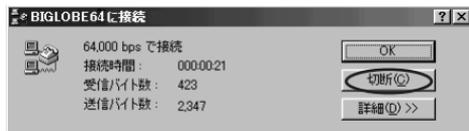
- 7 **接続** ボタンをクリックします。



プロバイダにダイヤルし、つながるとユーザー名とパスワードの認証がおこなわれます。確認できるとプロバイダのホストコンピュータに接続され、タスクトレイに [ダイヤルアップネットワークモナ] アイコンが表示されます。



- 8 [ダイヤルアップネットワークモナ] アイコンをダブルクリックし、**切断** ボタンをクリックします。



回線への接続が切断されます。



お願い

通信相手に接続できなかった場合にワイヤレスシリーズ親機が同一番号に再発信する回数は、最初の発信から数えて3分間で2回以内に制限されています。この制限内で接続できなかった場合は、時間をおいてから接続しなおしてください。
アクセスポイントに接続したあとに認証の失敗などで接続できなかった場合も、通信料金がかかります。
接続できないときは「5-1. 困ったときのQ & A」(P.114)を参照してください。

ホームページを見る

プロバイダに接続してインターネットのホームページを見るときは「ブラウザソフト」を使用します。ブラウザソフトの設定や使い方については、ブラウザソフトの「ヘルプ」などを参照してください。

- ① 「接続の確認」(P.55) ① ~ ④ を参照し、回線を接続します。
ワイヤレスシリーズ親機または携帯電話からプロバイダにダイヤルし、インターネットに接続します。
- ② Internet ExplorerやNetscape Navigatorなどのブラウザソフトを起動します。
- ③ 「アドレス」に見たいホームページのアドレス (URL) を入力し、**[Enter]** キーを押します。
例 : Aterm ホームページ <http://aterm.cplaza.ne.jp/>



AtermStationのアドレスおよび画面は平成12年2月現在のものです。

- ④ [ファイル] [終了] を選択し、ブラウザソフトを終了します。
- ⑤ タスクトレイの [ダイヤルアップネットワークモニタ] アイコンをダブルクリックし、**[切断]** ボタンをクリックします。
回線への接続が切断されます。



インターネットの接続を終了するときには、ブラウザソフトを終了させただけでは回線は切断されません。必ず [ダイヤルアップネットワークモニタ] で切断操作をしてください。

Windows 98 でブラウザソフトのアイコンがないとき

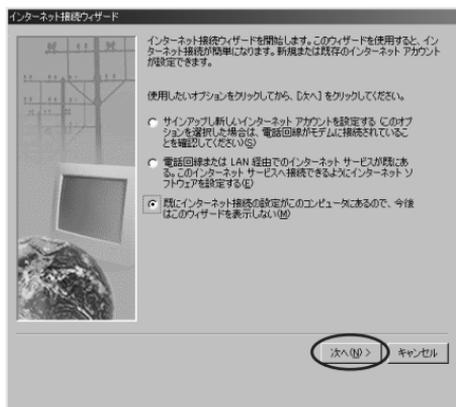
Windows 98 をご使用の方でデスクトップにブラウザソフト (Internet Explorer) のアイコンがないときは、以下の手順で [Internet Explorer] アイコンを作成します。

- ① デスクトップの [インターネットに接続] アイコンをダブルクリックします。



[インターネット接続ウィザード] 画面になります。

- ② 「既にインターネット接続の設定が...表示しない」を選択し、**次へ** ボタンをクリックします。



- ③ [インターネット接続ウィザード] を終了します。

デスクトップに [Internet Explorer] と [Outlook Express] のアイコンが表示されます。



3. Windows2000 をお使いの方は

Windows2000 を搭載したパソコンに RC35 をつないでインターネットに接続する手順を説明します。

RC35 を接続する

モデム情報ファイルをインストールする

らくらくウィザードで設定する

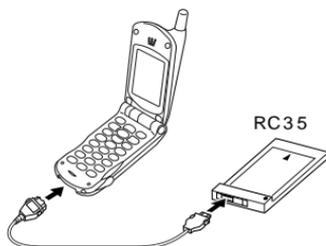
インターネットに接続する

3-1. RC35 を接続する

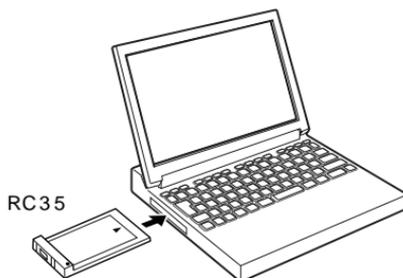
RC35 とパソコンを接続する

RC35 は、PCMCIA2.1/JEIDA V4.2 以降に対応した PCMCIA Type スロットを搭載している Windows® 2000 のパソコンに接続できます。

- 1 RC35 を接続するパソコンを起動します。
ワイヤレスシリーズ親機(AtermWM56、IW50/D、WX1、IW60、IW60HS DSU) を経由して接続するときは、**3** に進みます。
- 2 携帯電話またはドッチーモとRC35を添付の携帯電話接続ケーブルで接続します。



- 3 パソコンの PC カードスロットに RC35 を取り付けます。
RC35 に書かれている の方向に、奥までしっかりと差し込んでください。



モデム情報ファイルがすでにインストールされている場合は、タスクトレイに PC カードアイコンが表示されます。

モデム情報ファイルをインストールしていない場合は、「3-2. モデム情報ファイルをインストールする」(P.65) に進みます。

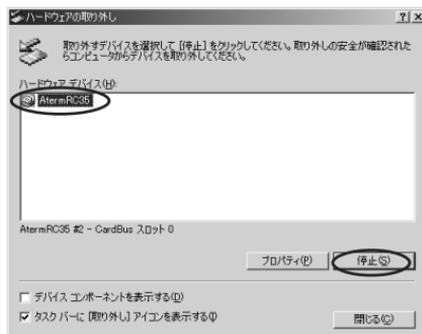
RC35 の取り外しかた

- ① タスクトレイのPCカードアイコンを右クリックし、[ハードウェアを取り外すかまたは取り出す]を選択します。



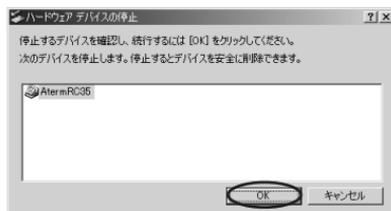
[ハードウェアの取り外し]画面が表示されます。

- ② 「AtermRC35」を選択し、**停止** ボタンをクリックします。



[ハードウェアデバイスの停止]画面が表示されます。

- ③ **OK** ボタンをクリックします。



- ④ **OK** ボタンをクリックします。



[ハードウェアの取り外し] 画面にもどります。

- ⑤ **閉じる** ボタンをクリックします。

- ⑥ RC35 の LED ランプが消えたことを確認し、パソコンの PC カードスロットの取り出しボタンを押して RC35 を取り出します。



RC35 の設定をするときには、RC35 をパソコンに取り付けた状態で設定してください。

携帯電話を接続して使用する場合は、RC35 と携帯電話を接続した状態でパソコンに取り付けてください。RC35 を先にパソコンに取り付けた状態で携帯電話の接続をすると、正しく認識されないことがあります。

PC カードスロットの取り扱いについては、お使いのパソコンの取扱説明書を参照してください。

3-2. モデム情報ファイルをインストールする

モデム情報ファイルをパソコンにインストールし、RC35を「使用するモデム」として設定します。添付のフロッピーディスク『モデム情報ファイル』、またはCD-ROM『AtermRC35ユーティリティ集』を用意してください。

モデム情報ファイルをインストールするときには、Administratorの権限が必要です。コントロールパネルの[ユーザーとパスワード]の設定を変更している場合は、「5-1. 困ったときのQ&A」(P.117)を参照してください。

モデム情報ファイルのインストール

- ① 「3-1. RC35を接続する」(P.62)を参照し、RC35をパソコンに取り付けます。

「新しいハードウェアが見つかりました」と表示されたあと、「標準PCMCIAカードモデム」としてインストールされます。

- ② **スタート** [設定] [コントロールパネル] を選択します。
[コントロールパネル] ウィンドウが表示されます。

- ③ [システム] アイコンをダブルクリックします。



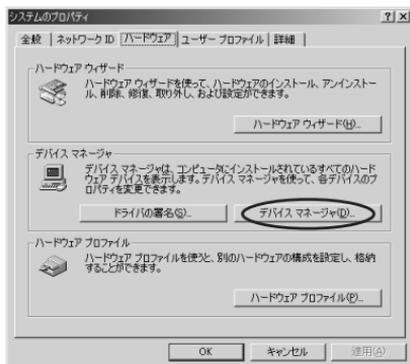
システム

[システムのプロパティ] 画面が表示されます。

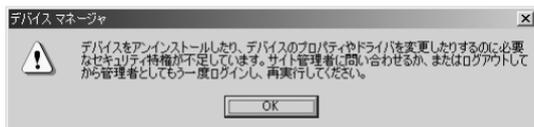
- ④ [ハードウェア] タブをクリックします。



5 [デバイスマネージャ] ボタンをクリックします。

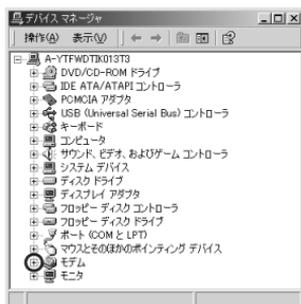


このとき次の画面が表示された場合は、モデム情報ファイルのインストールはできません。「5-1. 困ったときのQ&A」(P.117)を参照してください。



[デバイスマネージャ] ウィンドウが表示されます。

6 [モデム] アイコンの前の [+] をクリックします。



- 7 「標準 PCMCIA カードモデム」の上で右クリックし[プロパティ]を選択します。



[標準 PCMCIA カードモデムのプロパティ]画面が表示されます。

- 8 [ドライバ]タブをクリックします。

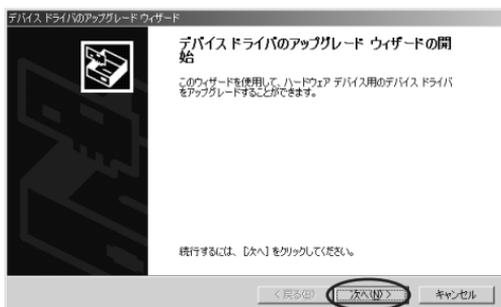


9 **ドライバの更新** ボタンをクリックします。



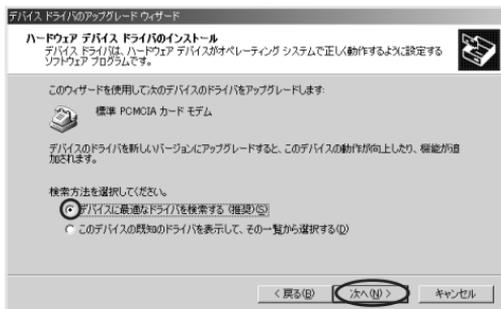
[デバイスドライバのアップグレードウィザード] 画面が表示されます。

10 **次へ** ボタンをクリックします。



ハードウェアデバイスドライバをインストールする画面が表示されます。

- 11 「デバイスに最適なドライバを検索する」を選択して **次へ** ボタンをクリックします。



ドライバファイルを指定する画面になります。

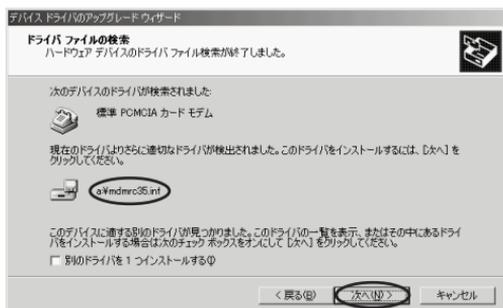
- 12 添付のフロッピーディスクまたはCD-ROM をパソコンにセットし、「検索場所のオプション」でセットしたドライブのみを にします。セットしていないドライブはクリックして にします。



CD-ROM をセットしたあとに「AtermRC35 ユーティリティ集」のメニュー画面が表示された場合は、メニュー画面の **終了** ボタンをクリックして「AtermRC35 ユーティリティ集」を終了させます。

- 13 **次へ** ボタンをクリックします。
ドライバファイルの検索結果が表示されます。

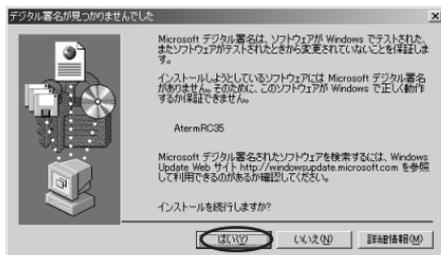
- 14 インストールするファイル名が「mdmrc35.inf」と表示されているのを確認し、**次へ** ボタンをクリックします。



上記ファイル名が表示されない場合は 12 でモデム情報ファイルのあるドライブを正しく指定したかを確認してください。

[デジタル署名が見つかりませんでした] 画面が表示されます。

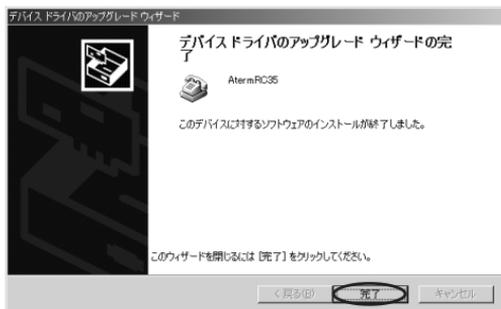
- 15 **はい** ボタンをクリックします。



この画面が表示されても、利用上の制約はありません。

デバイスドライバがアップグレードされます。

- 16 **完了** ボタンをクリックします。



モデム情報ファイルのインストールが終了し、[AtermRC35のプロパティ] 画面にもどります。

- 17 **閉じる** ボタンをクリックします。

[デバイスマネージャ] ウィンドウにもどります。

- 18 [デバイスマネージャ] ウィンドウを閉じます。

[システムのプロパティ] 画面にもどります。

- 19 **OK** ボタンをクリックします。

[コントロールパネル] ウィンドウにもどります。

- 20 [コントロールパネル] ウィンドウを閉じます。

「3-3. らくらくウィザードで設定する」(P.72)に進みます。

3-3. らくらくウィザードで設定する

添付CD-ROM『AtermRC35 ユーティリティ集』に収録されている『RC35 らくらくウィザード』を使うと、インターネットに接続するための下記の設定が画面に表示される案内にそって簡単にできます。

ワイヤレスシリーズ親機経由で接続するか、携帯電話で接続するかの
選択

ワイヤレスシリーズ親機を経由する場合の親機の機種を選択

プロバイダの設定

ワイヤレスシリーズ親機とRC35の無線区間の通信速度と、アクセスポイントへの通信速度の設定

CD-ROMドライブが使用できない場合など、RC35 らくらくウィザードを使わないで設定するには、「3-4. らくらくウィザードを使わないで設定する」(P.87)を参照してください。

らくらくウィザードを使用するときには、Administratorの権限が必要です。次の画面が表示された場合は、「5-1. 困ったときのQ&A」(P.117)を参照してください。



らくらくウィザードのインストール

添付CD-ROM『AtermRC35ユーティリティ集』に収録されている『RC35らくらくウィザード』をパソコンにインストールします。

① 「3-1. RC35を接続する」(P.62)を参照し、RC35をパソコンに取り付けます。

② 添付CD-ROM『AtermRC35ユーティリティ集』をパソコンにセットします。

「AtermRC35ユーティリティ集」のメニュー画面が表示されます。

すでにCD-ROMがセットされていた場合は、いったんCD-ROMを取り出してから再度セットしてください。

CD-ROMをセットしてもメニュー画面が表示されないときは「ファイル名を指定してインストールする」(P.77)を参照してください。

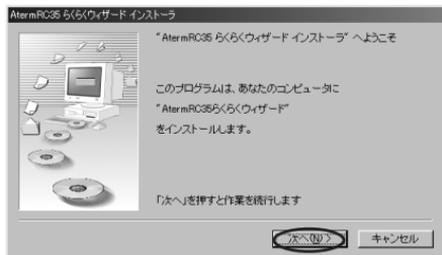
③ **RC35らくらくウィザード** ボタンをクリックします。



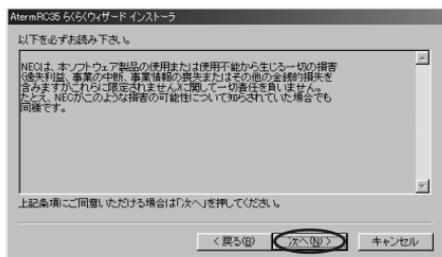
- 4 次へ ボタンをクリックします。



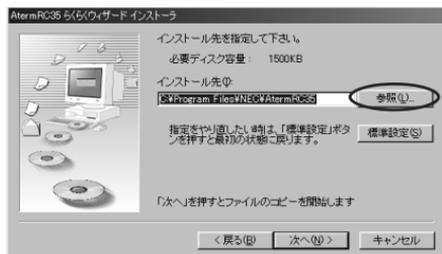
- 5 次へ ボタンをクリックします。



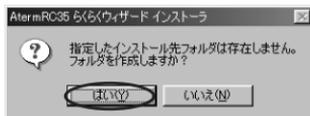
- 6 画面に表示されている内容を読んでから 次へ ボタンをクリックします。



- 7 らくらくウィザードのインストール先を指定します。
表示されているインストール先でなければそのままにします。変更する場合は「参照」ボタンをクリックし、インストール先を指定します。

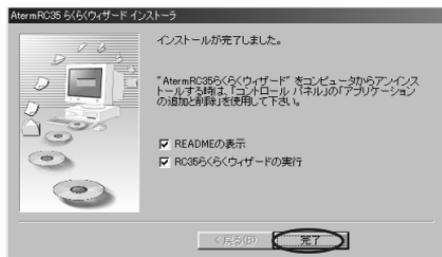


- 8 「次へ」ボタンをクリックします。
次の画面が表示された場合は「はい」ボタンをクリックします。



「インストールが完了しました。」と表示されます。

- 9 「完了」ボタンをクリックします。



RC35 らくらくウィザードが起動します。

「READMEの表示」を にしておくと、メモ帳が起動してらくらくウィザードについての説明が表示されます。内容を確認したらメモ帳を終了します。

らくらくウィザードでの設定を続けておこなわない場合は、「RC35 らくらくウィザードの実行」をクリックして にします。



「らくらくウィザードで設定する」の③（ P.78 ）に進みます。

ファイル名を指定してインストールする

CD-ROMをセットしても「AtermRC35ユーティリティ集」のメニュー画面が表示されないときは、以下の手順でインストールを実行してください。

- ① **スタート** [ファイル名を指定して実行] を選択します。
[ファイル名を指定して実行] 画面が表示されます。

- ② 「名前」に半角文字で次のように入力します。

Q:¥UTIL¥RC35WIZ¥RCSetup.exe

CD-ROM ドライブ名を指定



- ③ **OK** ボタンをクリックします。

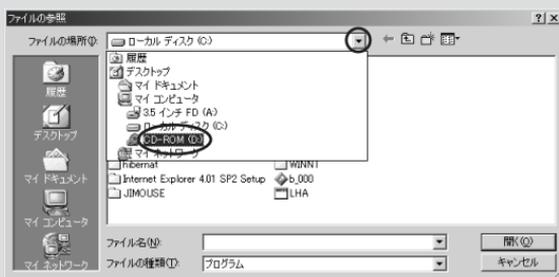
らくらくウィザードのインストールがはじまります。



CD-ROMのドライブ名はパソコンによって異なります。ドライブ名がわからないときは、次の操作でCD-ROMドライブを確認します。

- ① [ファイル名を指定して実行] 画面で **参照** ボタンをクリックします。
[ファイルの参照] 画面が表示されます。

- ② 「ファイルの場所」の **▼** をクリックし、CD-ROMドライブを選択します。



- ③ ドライブ名を確認したら **キャンセル** ボタンをクリックします。

らくらくウィザードで設定する

- ① ほかのアプリケーションを使用しているときは、そのアプリケーションを終了します。

- ② **スタート** [プログラム] [AtermRC35らくらくウィザード] [RC35らくらくウィザード]を選択します。

RC35らくらくウィザードが起動し、[RC35らくらくウィザードによる]画面が表示されます。

- ③ **次へ** ボタンをクリックします。



[設定を始める前に]画面が表示されます。

- ④ **次へ** ボタンをクリックします。



[接続COMポート]画面にRC35の接続されているCOMポートが表示されます。

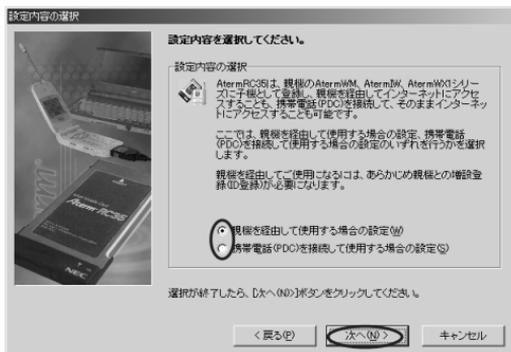
5 次へ ボタンをクリックします。



この画面で「AtermRC35が接続されているCOMポートが見つかりません。」と表示されたときは、RC35が正しく認識されていません。画面に表示されている内容を確認してください。それでもRC35が認識されない場合は、「6-3. ハイパーターミナルを使う」(P.139)を参照し、AT コマンドを使って接続の確認をしてください。

[設定内容の選択] 画面が表示されます。

6 親機経由で使用するか携帯電話を接続するか選択します。



7 次へ ボタンをクリックします。

8 6 でどちらを選択したかによって、それぞれ次の手順へ進みます。

親機を経由して使用する場合の設定

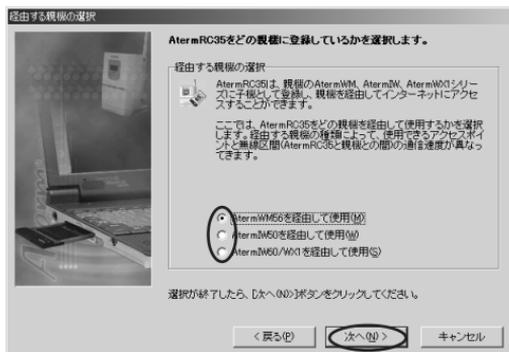
.....「親機経由でインターネットに接続する」(P.80)

携帯電話を接続して使用する場合の設定

.....「携帯電話でインターネットに接続する」(P.84)

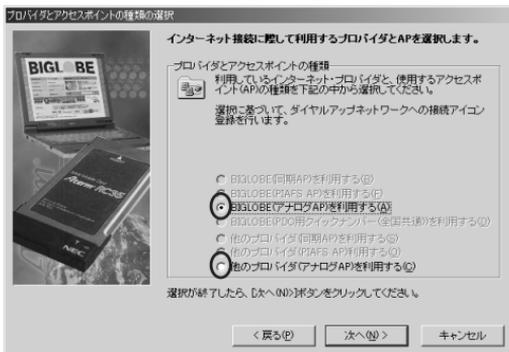
親機経由でインターネットに接続する

- ① [経由する親機の選択] 画面に表示されている機種名の中から RC35 を増設登録しているワイヤレスシリーズ親機を選択し、**次へ** ボタンをクリックします。



[プロバイダとアクセスポイントの種類の選択] 画面が表示されます。

- ② 契約しているプロバイダと接続するアクセスポイントの種類を選択します。



「同期 AP」は ISDN 同期 64K 用のアクセスポイントです。
『BIGLOBE』は NEC の運営するプロバイダです。BIGLOBE にすでに入会している場合は「BIGLOBE を利用する」を選択します。

- ③ **次へ** ボタンをクリックします。

[接続先の設定] 画面が表示されます。

- ④ プロバイダから指定されたユーザ設定情報などの資料に従って、アクセスポイントとDNSを設定します。

接続先の設定

BIGLOBEのアクセスポイントを選択します。

アクセスポイント

最寄りのアクセスポイント(AP)を選択してください。

市外局番で最寄りのアクセスポイントを検索(C) 03

最寄りのAP(A) 東京(03) [アナログ56k、同期4k・128k、]

電話番号(B) 03 - 0510-5115

接続先名(C) BIGLOBE東京(03) [アナログ56k、同期4k、]

DNS (番号を変更する必要ありません)

プライマリDNS(D) 133.205.007.225

セカンダリDNS(E) 133.205.004.129

設定が終了したら、[次へ(C)]ボタンをクリックしてください。

<戻る(B) 次へ(C) > キャンセル

BIGLOBEに接続する場合は「市外局番で最寄りのアクセスポイントを検索」に市外局番を入力すると、最寄りのアクセスポイントの設定が表示されます。

- ⑤ [次へ] ボタンをクリックします。

[無線区間速度の選択]画面が表示されます。

- ⑥ RC35とワイヤレスシリーズ親機との無線区間の通信速度を選択します。

無線区間速度の選択

親機との間(無線区間)の通信速度を選択します。

無線区間速度の選択

RC35と親機との間(無線区間)の通信速度を設定します。

無線区間速度を64Kにすると、同期64k/PIAFS2.0対応64k/アナログ6k APIに接続しての高速データ通信が可能です。ただし、親機との間の無線チャネルを本機専用にするので、同時にほかの子機もご利用できません。

無線区間速度を32Kにすると、親機との間の無線チャネルを1本使用します。ほかの子機を同時にご利用になる場合に選択してください。

無線区間の通信速度を64Kにする(64k) 64k対応のAPIに接続する場合はこちらをお選びください(最高速での通信が可能です)。

無線区間の通信速度を32Kにする(32k) 56k非対応のAPIに接続する場合はこちらを選択してください。

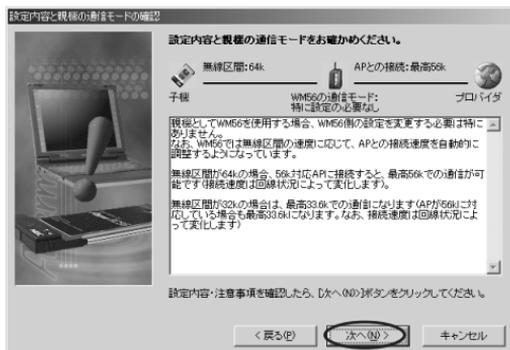
選択が終了したら、[次へ(C)]ボタンをクリックしてください。

<戻る(B) 次へ(C) > キャンセル

ワイヤレスシリーズ親機が AtermWM56、IW50/D の場合は無線区間の通信速度は32Kまたは64K、WX1、IW60、IW60HS DSU では32Kです。

- ⑦ **次へ** ボタンをクリックします。
[設定内容と親機の通信モードの確認]画面が表示されます。

- ⑧ 設定内容を確認し、**次へ** ボタンをクリックします。



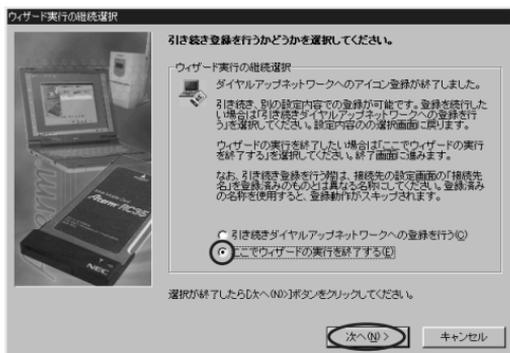
[ダイヤルアップ接続の登録]画面が表示されます。

- ⑨ **実行** ボタンをクリックします。



システム登録の実行中はキーボードやマウスの操作をしないでください。
設定内容がパソコンに登録され、[ウィザード実行の継続選択]画面が表示されます。

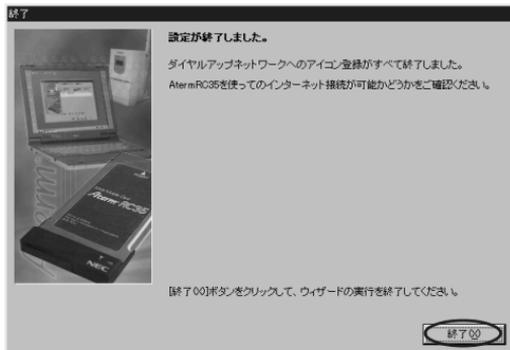
- ⑩ 「ここでウィザードの実行を終了する」を選択し、**次へ** ボタンをクリックします。



親機経由と携帯電話接続を使い分けたいなど、複数の設定を登録するときは「引き続きダイアルアップネットワークへの登録を行う」を選択します。

[終了] 画面になります。

- ⑪ **終了** ボタンをクリックします。



RC35 らしくらくウィザードが終了します。

- ⑫ 「AtermRC35 ユーティリティ集」のメニュー画面の **終了** ボタンをクリックします。

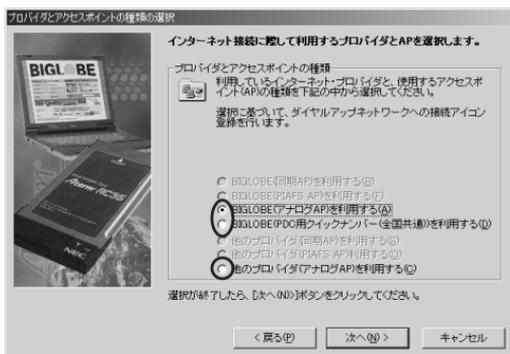
AtermRC35 ユーティリティ集のメニューが終了します。

- ⑬ CD-ROM ドライブのアクセスランプが消えたのを確認し、CD-ROM を取り出します。

「3-5. インターネットに接続する」(P.96) に進みます。

携帯電話でインターネットに接続する

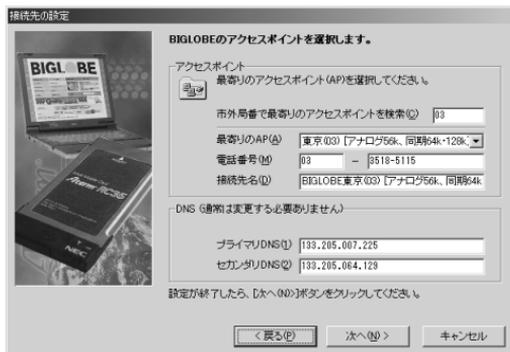
- ① 契約しているプロバイダを選択します。



『BIGLOBE』はNECの運営するプロバイダです。BIGLOBEにすでに入会している場合は「BIGLOBE を利用する」を選択します。

- ② **次へ** ボタンをクリックします。
[接続先の設定] 画面が表示されます。

- ③ プロバイダから指定されたユーザ設定情報などの資料に従って、アクセスポイントとDNSを設定します。



BIGLOBE (アナログ AP) に接続する場合は「市外局番で最寄りのアクセスポイントを検索」に市外局番を入力すると、最寄りのアクセスポイントの設定が表示されます。

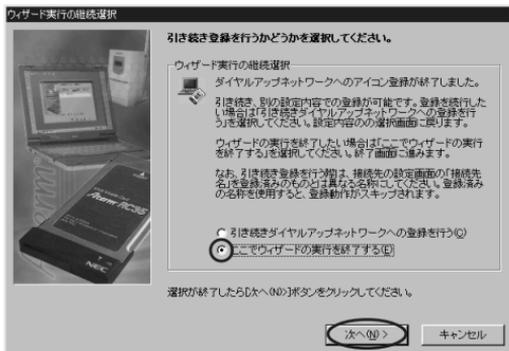
BIGLOBE（PDC用クイックナンバー）に接続する場合は、電話番号を入力する必要はありません。

- ④ **次へ** ボタンをクリックします。
[ダイヤルアップ接続の登録]画面が表示されます。
- ⑤ **実行** ボタンをクリックします。



システム登録の実行中はキーボードやマウスの操作をしないでください。
設定内容がパソコンに登録されます。

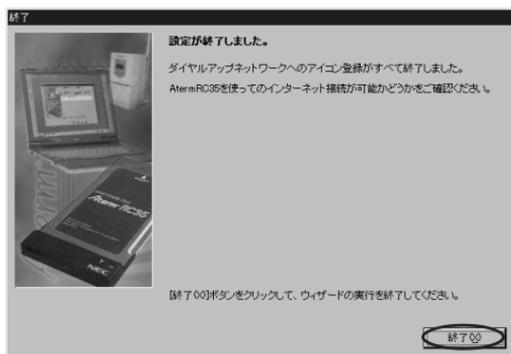
- ⑥ 「ここでウィザードの実行を終了する」を選択し、**次へ** ボタンをクリックします。



親機経由と携帯電話接続を使い分けたいなど、複数の設定を登録するときは「引き続きダイヤルアップネットワークへの登録を行う」を選択します。

[終了]画面になります。

- ⑦ **終了** ボタンをクリックします。



RC35 らくらくウィザードが終了します。

- ⑧ 「AtermRC35 ユーティリティ集」のメニュー画面の **終了** ボタンをクリックします。

AtermRC35 ユーティリティ集のメニューが終了します。

- ⑨ CD-ROM ドライブのアクセスランプが消えたのを確認し、CD-ROM を取り出します。

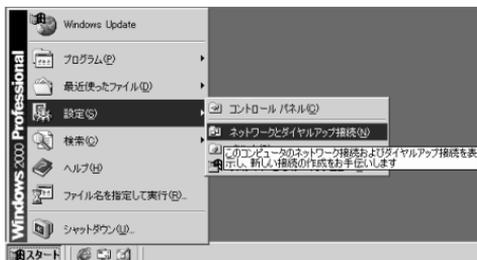
「3-5. インターネットに接続する」(P.96) に進みます。

3-4. らくらくウィザードを使わないで設定する

CD-ROMドライブが使用できない場合やRC35らくらくウィザードが正しく動作しないときは、RC35 らくらくウィザードを使わないで設定します。

ネットワークとダイヤルアップ接続の設定

- ① 「3-1. RC35を接続する」(P.62)を参照し、RC35をPCカードスロットに取り付けます。
- ②  [設定] [ネットワークとダイヤルアップ接続]を選択します。



[スタートメニュー]は図と異なることがあります。

[ネットワークとダイヤルアップ接続]ウィンドウが表示されます。

- ③ [新しい接続の作成]アイコンをダブルクリックします。



新しい接続の
作成

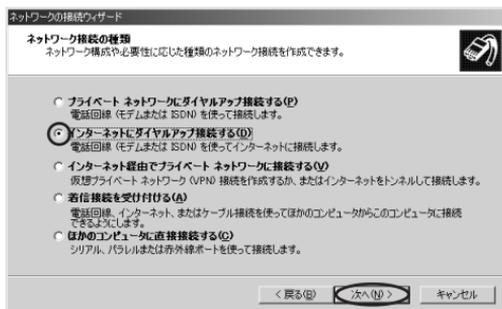
[ネットワークの接続ウィザード]画面が表示されます。

4 「次へ」 ボタンをクリックします。



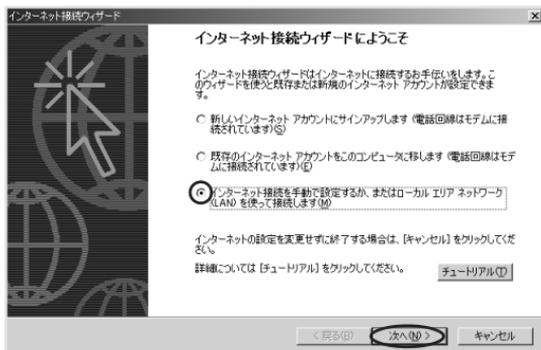
ネットワーク接続の種類を選択する画面が表示されます。

5 「インターネットにダイヤルアップ接続する」を選択し、「次へ」 ボタンをクリックします。



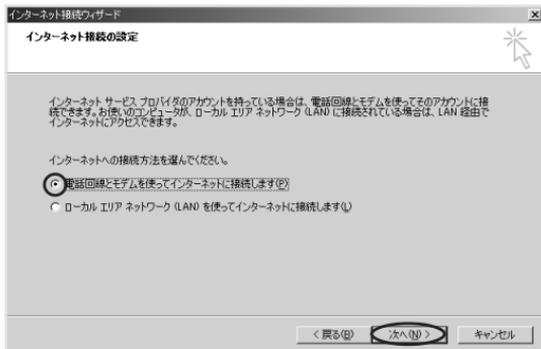
[インターネット接続ウィザード] 画面が表示されます。

- 6 「インターネット接続を手動で設定する…」を選択し、**次へ** ボタンをクリックします。



インターネット接続の設定をする画面が表示されます。

- 7 「電話回線とモデムを使ってインターネットに接続します」を選択し、**次へ** ボタンをクリックします。



[モデムの選択] 画面が表示されます。

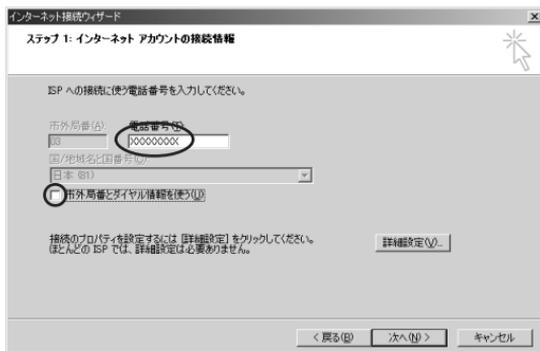
- ⑧ 接続に使うモデムで「AtermRC35」を選択し、「次へ」ボタンをクリックします。



インターネットアカウントの接続情報を設定する画面が表示されます。

RC35を接続しているパソコンに複数のモデムが接続されている場合のみ、この画面が表示されます。

- ⑨ 「電話番号」に接続するアクセスポイントの電話番号を市外局番から入力し、「市外局番とダイヤル情報を使う」をクリックして にします。



接続方法によって、次のように電話番号を入力します。

経由する機器	親機の設定	無線区間速度	電話番号の指定
IW50/D	PIAFSスルー	32kbps	32K対応PIAFSアクセスポイントの電話番号を入力し、末尾に「PF」をつける
		64kbps	64K対応PIAFSアクセスポイントの電話番号を入力し、末尾に「PD」をつける
	プロトコル変換	32kbps	ISDN同期64Kアクセスポイントの電話番号を入力し、末尾に「PF」をつける
		64kbps	ISDN同期64Kアクセスポイントの電話番号を入力し、末尾に「PD」をつける
WX1 IW60 IW60HS DSU	PIAFSスルー	32kbps	32K対応PIAFSアクセスポイントの電話番号を入力し、末尾に「PF」をつける
	プロトコル変換	32kbps	ISDN同期64Kアクセスポイントの電話番号を入力し、末尾に「PF」をつける
WM56	-	32kbps	アナログアクセスポイントの電話番号を入力し、末尾に「PF」をつける
	-	64kbps	アナログアクセスポイントの電話番号を入力し、末尾に「PD」をつける
携帯電話	-	9600bps	アナログアクセスポイントまたはクイックナンバーの電話番号を入力し、末尾に「PC」をつける

10 ボタンをクリックします。

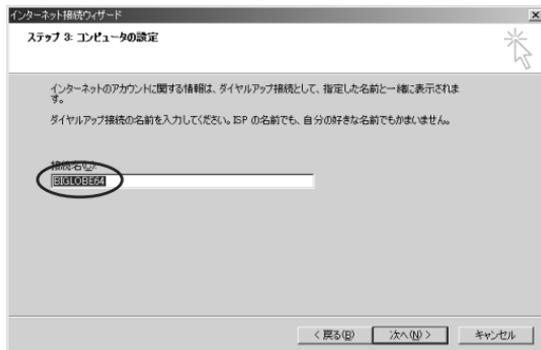
インターネットアカウントのログオン情報の画面が表示されます。

- 11 プロバイダから指定されたユーザ設定情報などの資料に従って、「ユーザー名」と「パスワード」を入力します。



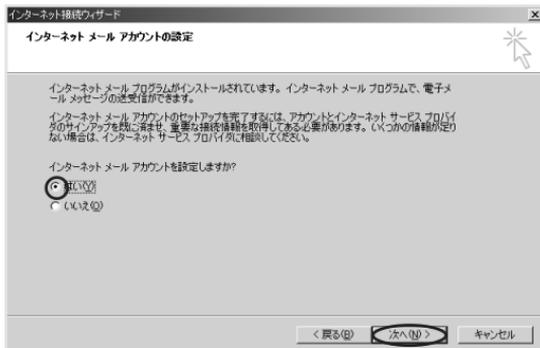
- 12 **次へ** ボタンをクリックします。
コンピュータの設定の画面が表示されます。

- 13 「接続名」にダイヤルアップ接続の名前を任意に入力します。
ここでは例として「BIGLOBE64」と入力します。



- 14 「次へ」 ボタンをクリックします。
インターネットメールアカウントを設定する画面が表示されます。

- 15 「はい」を選択し、「次へ」 ボタンをクリックします。



名前を設定する画面が表示されます。

- 16 電子メール送信の際に表示する名前を入力し、「次へ」 ボタンをクリックします。



インターネット電子メールアドレスを設定する画面が表示されます。

- 17 プロバイダから指定されたユーザ設定情報などの資料に従って、「電子メールアドレス」を入力します。



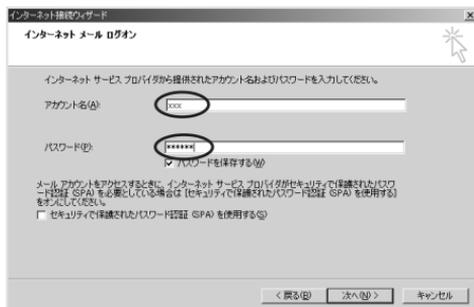
- 18 **次へ** ボタンをクリックします。
[電子メールサーバー名] 画面が表示されます。

- 19 プロバイダから指定されたユーザ設定情報などの資料に従って、メールサーバーの種類と名前を入力します。



- 20 **次へ** ボタンをクリックします。
インターネットメールログインを設定する画面が表示されます。

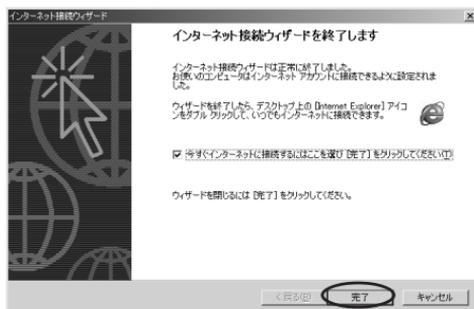
- 21 プロバイダから指定されたユーザ設定情報などの資料に従って、「アカウント名」と「パスワード」を入力します。



「パスワードを保存する」をクリックして にしておくと、次の接続からパスワードを入力する必要がなくなります。

- 22 ボタンをクリックします。

- 23 ボタンをクリックします。



「今すぐインターネットに接続・・・」が になっていると、ブラウザが起動しインターネットに接続できます。

[ネットワークとダイヤルアップ接続]ウィンドウにもどり、2でつけた名前の接続アイコンができます。



BIGLOBE64

「3-5. インターネットに接続する」(P.96)に進みます。

3-5. インターネットに接続する

接続の確認

プロバイダに電話をかけ、正しく接続できるか確認します。

- 1 インターネットに接続するワイヤレスシリーズ親機または携帯電話を通信できるように準備します。
- 2 「3-1. RC35 を接続する」(P.62) を参照し、RC35 を PC カードスロットに取り付けます。
- 3 **スタート** [設定] [ネットワークとダイヤルアップ接続] を選択します。
- 4 接続アイコン (例: BIGLOBE64) をダブルクリックします。



BIGLOBE64

[接続] 画面が表示されます。

- 5 プロバイダから指定されたユーザ設定情報などの資料に従って、「ユーザー名」と「パスワード」を入力します。



「パスワードを保存する」をクリックして にしておくと、次回の接続からパスワードを入力する必要がなくなります。

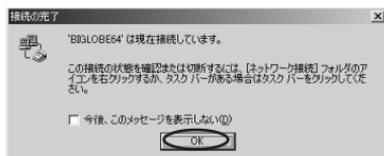
⑥ **ダイヤル** ボタンをクリックします。

ワイヤレスシリーズ親機または携帯電話からプロバイダにダイヤルします。



ユーザー名とパスワードの認証をおこない、確認できるとプロバイダのホストコンピュータに接続され、[接続完了] 画面とタスクトレイに[ネットワークとダイヤルアップ接続] アイコンが表示されます。

⑦ **OK** ボタンをクリックします。



回線に接続されます。

⑧ **[ネットワークとダイヤルアップ接続]** アイコンをクリックします。



[状態] 画面が表示されます。

⑨ **切断** ボタンをクリックします。



回線への接続が切断されます。



通信相手に接続できなかった場合にワイヤレスシリーズ親機が同一番号に再発信する回数は、最初の発信から数えて3分間で2回以内に制限されています。この制限内で接続できなかった場合は、時間をおいてから接続しなおしてください。

アクセスポイントに接続したあとに認証の失敗などで接続できなかった場合も、通信料金がかかります。

接続できないときは「5-1. 困ったときのQ&A」(P.114)を参照してください。

ホームページを見る

プロバイダに接続してインターネットのホームページを見るときは「ブラウザソフト」を使用します。ブラウザソフトの設定や使い方については、ブラウザソフトの[ヘルプ]などを参照してください。

- ① 「接続の確認」(P.96) の ① ~ ⑦ を参照し、回線を接続します。
ワイヤレスシリーズ親機または携帯電話がプロバイダに電話をかけ、インターネットに接続します。
- ② Internet ExplorerやNetscape Navigatorなどのブラウザソフトを起動します。
- ③ 「アドレス」に見たいホームページのアドレス (URL) を入力し、
 キーを押します。

例 : Aterm ホームページ <http://aterm.cplaza.ne.jp/>



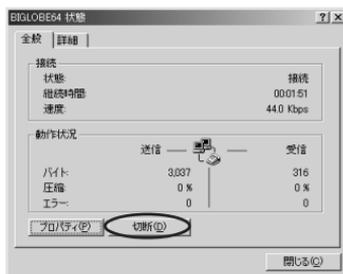
AtermStationのアドレスおよび画面は平成12年2月現在のものです。

- ④ [ファイル] [終了] を選択し、ブラウザソフトを終了します。
- ⑤ [ネットワークとダイヤルアップ接続] アイコンをクリックします。



[状態] 画面が表示されます。

6 **切断** ボタンをクリックします。



回線への接続が切断されます。



インターネットの接続を終了するときには、ブラウザソフトを終了しただけでは回線は切断されません。必ず [ネットワークとダイヤルアップ接続] で切断操作をしてください。

4 . WindowsCE をお使いの方は

WindowsCE を搭載したモバイルギア にRC35をつないでインターネットに接続する手順を説明します。

RC35 を接続する

ネットワークの設定をする

インターネットに接続する

1. 使用の前に

Windows95/Windows98
をお使いの方は

Windows2000
をお使いの方は

WindowsCE
をお使いの方は

困ったときには

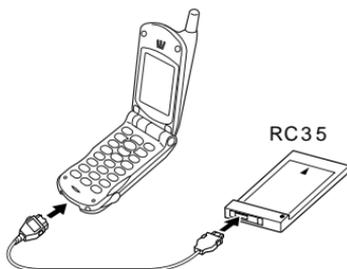
付録

4-1. RC35 を接続する

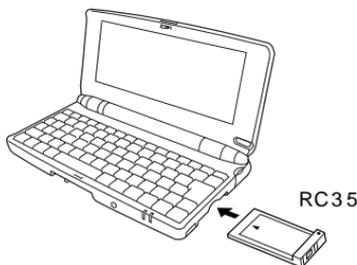
RC35 とモバイルギア を接続する

RC35 は、PCMCIA2.1/JEIDA V4.2 以降に対応した PCMCIA Type スロットを搭載している Windows® CE のモバイルギア に接続できます。

- 1 モバイルギア の電源を切ります。
ワイヤレスシリーズ親機(AtermWM56、IW50/D、WX1、IW60、IW60HS DSU)を経由して接続するときは、**3** に進みます。
- 2 携帯電話またはドッチーモと RC35 を添付の携帯電話接続ケーブルで接続します。



- 3 モバイルギア の PC カードスロットに RC35 を取り付けます。
RC35 に書かれている の方向に、奥までしっかりと差し込んでください。



- 4 モバイルギア の電源を入れます。
「4-2. ネットワークの設定をする」(P.104)に進みます。

RC35 の取り外しかた

- ① モバイルギア の電源を切ります。
- ② モバイルギア のPCカードスロットの取り出しボタンを押してRC35を取り出します。



お願い

モバイルギア にACアダプタを接続してお使いになることをおすすめします。

RC35の設定をするときには、RC35をモバイルギア に取り付けた状態で設定してください。

携帯電話を接続して使用する場合は、RC35と携帯電話を接続した状態でモバイルギア に取り付けてください。RC35を先にモバイルギア に取り付けた状態で携帯電話の接続をすると、正しく認識されないことがあります。

PCカードスロットの取り扱いについては、お使いのモバイルギアの取扱説明書を参照してください。

4-2. ネットワークの設定をする

インターネットにダイヤルアップ接続をするための設定をします。

リモートネットワークの設定

- 1 「4-1. RC35 を接続する」(P.102)を参照し、RC35 をモバイルギア に取り付けます。
- 2 **スタート** [プログラム] [通信] [リモートネットワーク] を選択します。
- 3 [新しい接続] アイコンをダブルタップ (ダブルクリック) します。



新しい接続

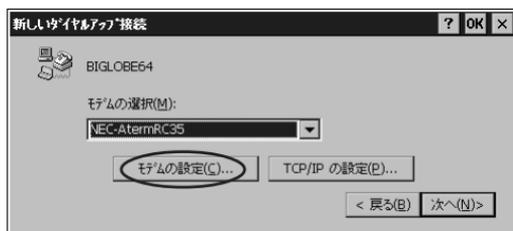
[新しい接続] 画面が表示されます。

- 4 「接続名」に接続するプロバイダの名前を任意に入力します。
ここでは例として「BIGLOBE64」と入力します。
- 5 「接続の種類」で「ダイヤルアップ接続」を選択し、**次へ** ボタンをタップ (クリック) します。



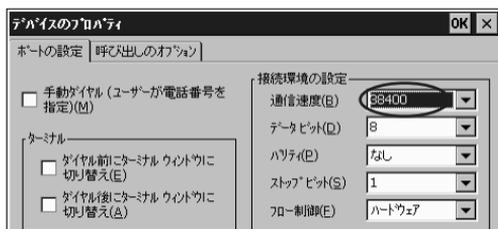
[新しいダイヤルアップ接続] 画面が表示されます。

- ⑥ 「モデムの選択」で「NEC-AtermRC35」を選択し、「モデムの設定」ボタンをタップします。



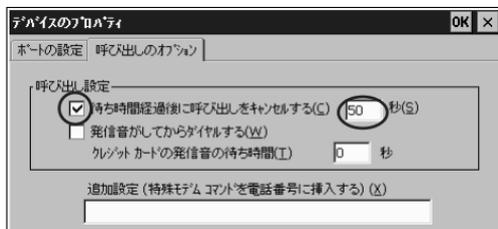
[デバイスのプロパティ] 画面が表示されます。

- ⑦ 接続環境の設定の「通信速度」で「38400」を選択します。



- ⑧ [呼び出しのオプション] タブをタップします。

- ⑨ 「待ち時間経過後に呼び出しをキャンセルする」を「50 秒」にし、「発信音がしてからダイヤルする」をタップして にします。

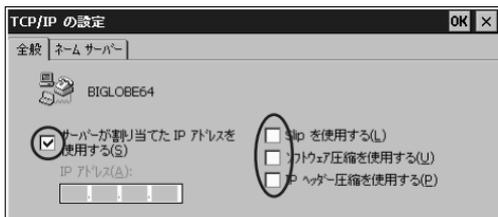


- ⑩ [OK] ボタンをタップします。

[新しいダイヤルアップ接続] 画面にもどります。

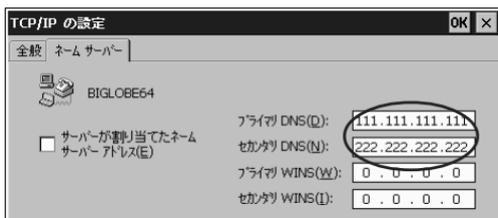
- 11 [TCP/IP の設定] ボタンをタップします。
[TCP/IP の設定] 画面が表示されます。

- 12 「サーバーが割り当てた IP アドレスを使用する」を 、「Slip を使用する」「ソフトウェア圧縮を使用する」「IP ヘッダー圧縮を使用する」をタップして にします。



- 13 [ネームサーバー] タブをタップし、「サーバーが割り当てたネームサーバーアドレス」をタップして にします。

- 14 プロバイダから指定されたユーザ設定情報などの資料に従って DNS を入力します。



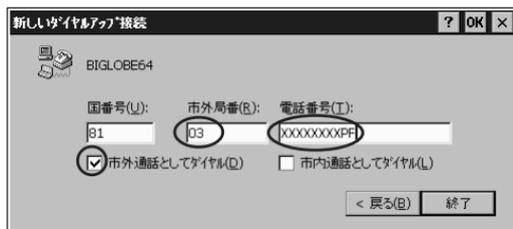
- 15 [OK] ボタンをタップします。
[新しいダイヤルアップ接続] 画面にもどります。

- 16 [次へ] ボタンをタップします。



アクセスポイントの電話番号を入力します。

「市外通話としてダイヤル」をタップして にし、市外局番と電話番号を入力します。



接続方法によって、次のように電話番号を入力します。

経由する機器	親機の設定	無線区間速度	電話番号の指定
IW50/D	PIAFSスルー	32kbps	32K対応PIAFSアクセスポイントの電話番号を入力し、末尾に「PF」をつける
		64kbps	64K対応PIAFSアクセスポイントの電話番号を入力し、末尾に「PD」をつける
	プロトコル変換	32kbps	ISDN同期64Kアクセスポイントの電話番号を入力し、末尾に「PF」をつける
		64kbps	ISDN同期64Kアクセスポイントの電話番号を入力し、末尾に「PD」をつける
WX1 IW60 IW60HS DSU	PIAFSスルー	32kbps	32K対応PIAFSアクセスポイントの電話番号を入力し、末尾に「PF」をつける
	プロトコル変換	32kbps	ISDN同期64Kアクセスポイントの電話番号を入力し、末尾に「PF」をつける
WM56	-	32kbps	アナログアクセスポイントの電話番号を入力し、末尾に「PF」をつける
	-	64kbps	アナログアクセスポイントの電話番号を入力し、末尾に「PD」をつける
携帯電話	-	9600bps	アナログアクセスポイントまたはクイックナンバーの電話番号を入力し、末尾に「PC」をつける

- 18 **終了** ボタンをタップします。

[リモートネットワーク]画面にもどり、④ でつけた名前の接続アイコンができます。

- 19 接続アイコン (例 : BIGLOBE64) をダブルタップします。



[ダイアルアップ接続] 画面になります。

- 20 **ダイヤルのプロパティ** ボタンをタップします。

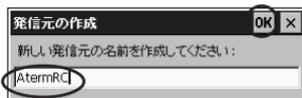


[ダイアルのプロパティ] 画面になります。

- 21 **追加** ボタンをタップします

[発信元の作成] 画面になります。

- 22 「AtermRC」と入力し、**OK** ボタンをタップします。

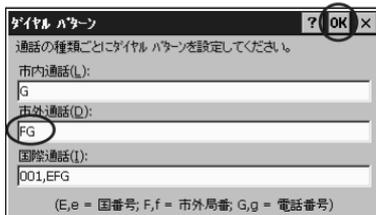


- 23 「ダイヤルパターン」ボタンをタップします。



[ダイヤルパターン]画面になります。

- 24 「市外通話」に「FG」と入力し、[OK]ボタンをタップします。



[ダイヤルのプロパティ]画面にもどります。

- 25 [OK]ボタンをタップします。

[ダイヤルアップ接続]画面にもどります。

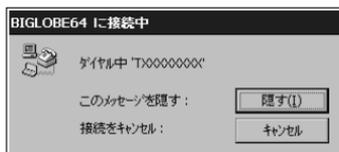
- 26 プロバイダから指定されたユーザ設定情報などの資料に従って「ユーザー名」と「パスワード」を入力します。「ドメイン名」は空白にしておきます。



「パスワードの保存」をタップして にしておくと、次回の接続からパスワードを入力する必要がなくなります。

27 **接続** ボタンをタップします。

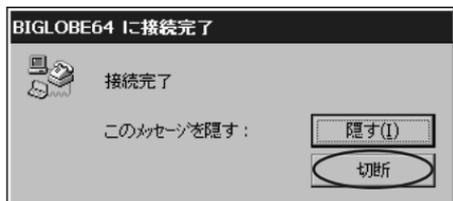
「接続中」と表示されたあと [接続完了] 画面が表示されます。



タスクトレイにダイヤルアップ接続アイコンが表示され、インターネットに接続状態になります。



28 **切断** ボタンをタップします。



回線への接続が切断されます。



通信相手に接続できなかった場合にワイヤレスシリーズ親機が同一番号に再発信する回数は、最初の発信から数えて3分間で2回以内に制限されています。この制限内で接続できなかった場合は、時間を置いてから接続しなおしてください。
アクセスポイントに接続したあとに認証の失敗などで接続できなかった場合も、通信料金がかかります。
接続できないときは「5-1. 困ったときのQ&A」(P.114)を参照してください。

4-3. インターネットに接続する

ホームページを見る

プロバイダに接続してインターネットのホームページを見るときは「ブラウザソフト」を使用します。ブラウザソフトの設定や使い方については、ブラウザソフトの「ヘルプ」などを参照してください。

- 1 **スタート** [プログラム] [通信] [リモートネットワーク] を選択します。
- 2 接続アイコン（例：BIGLOBE64）をダブルタップします。



[ダイヤルアップ接続] 画面になります。

- 3 **接続** ボタンをタップします。



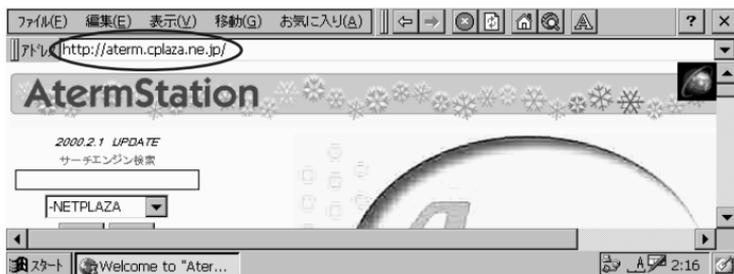
ワイヤレスシリーズ親機または携帯電話からプロバイダにダイヤルし、インターネットに接続します。

- 4 デスクトップの[Internet Explorer]アイコンをダブルタップします。



- 5 「アドレス」に見たいホームページのアドレス（URL）を入力し、 キーを押します。

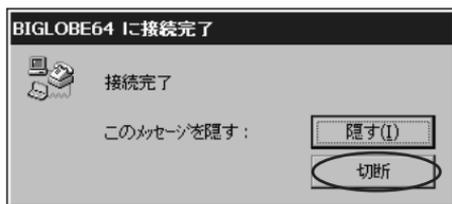
例：Aterm ホームページ <http://aterm.cplaza.ne.jp/>



AtermStationのアドレスおよび画面は平成12年2月現在のものです。

- 6  をタップし、ブラウザソフトを終了します。

- 7  ボタンをタップします。



回線への接続が切断されます。



お願い

インターネットの接続を終了するときには、ブラウザソフトを終了しただけでは回線は切断されません。必ず[接続]画面で切断操作をしてください。

5 . 困ったときには

「接続ができない」などのトラブルが起きたときの解決方法と、お問い合わせ先を紹介します。

困ったときのQ&A

Aterm についてのお問い合わせ

アフターサービス

PC クリーンスポット

Windows® 95 は Microsoft® Windows® 95 operating system の略です。
Windows® 98 は Microsoft® Windows® 98 operating system の略です。
Windows® 2000 は Microsoft® Windows® 2000 operating system の略です。
Windows® CE は Microsoft® Windows® CE operating system の略です。

5-1. 困ったときのQ&A

AtermRC35 を使っていて正しく動作しないときにお読みください。

こんなとき	原因と対策	参照ページ
RC35が反応しない パソコンまたはモバイルギアで認識しない	<p>RC35とパソコンまたはモバイルギアが正しく接続されていない</p> <p>RC35とパソコンまたはモバイルギアと携帯電話との接続を確認してください。正しく接続されていない場合は、次のように接続しなおします。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. RC35をPCカードスロットから取り出します。 2. 携帯電話を接続する場合は、RC35と携帯電話を携帯電話接続ケーブルでつなぎます。 3. RC35をもう一度PCカードスロットに取り付けます。 <p>RC35を認識しないときは、タスクトレイの[PCカードのプロパティ]をクリックして「AtermRC35」と表示されることを確認してください。表示されないときは、モデム情報ファイルが正しくインストールされていません。モデム情報ファイルをもう一度インストールしてください。</p>	<p>95/98 P.20</p> <p>2000 P.62</p> <p>CE P.102</p> <p>95/98 P.22</p> <p>2000 P.65</p>
データ通信ができない	<p>RC35がデータ通信可能状態になっていない</p> <p>RC35をワイヤレスシリーズ親機(Aterm WM56、IW50/D、WX1、IW60、IW60HS DSU)の電波が届くところまで移動させてください。</p> <p>無線の使える範囲は見通し距離で約100mですが、住宅の構造(断熱壁、防音壁、鉄壁)や家具、電子機器などの配置によっては通話距離が短くなります。なるべくワイヤレスシリーズ親機の近くで使用してください。ただし、近すぎると電波が強すぎて使用できない場合があります。1m程度はなしてご使用ください。</p>	<p>P.11</p>

95/98=Windows® 95/Windows® 98

2000=Windows® 2000

CE=Windows® CE

こんなとき	原因と対策	参照ページ
データ通信ができない	<p>RC35が増設登録（ID登録）されていない</p> <p>RC35をワイヤレスシリーズ親機の子機として使用するには、増設登録が必要です。登録はお近くのNECサービスステーションまたはPCクリンスポット、お買い上げいただいた販売店で有料にて承りますのでご相談ください。</p>	P.14
	<p>ワイヤレスシリーズ親機に登録されている他の子機が外線通信、64kbps通信、デュアルリンクワイヤレス通信のいずれかをおこなっている。</p> <p>ワイヤレスシリーズ親機のAtermWM56、IW50/D、WX1、IW60、IW60HS DSUで同時に使用できる無線ポートは2つまでです。リモートステーションなどの他の子機が使用中でないか確認してください。ワイヤレスシリーズ親機のPHSランプが赤色に点滅しているときは、無線ポートが2つとも使用中の状態です。子機の通話が終わるのを待ってご使用ください。（RC35ではPIAFS64Kの接続となり、デュアルリンクワイヤレス通信は利用できません。）</p>	
インターネットに接続できない	<p>回線が混雑している</p> <p>回線が混んでいて接続できないことがあります。何度か接続しなおしてみるか、時間を置いてから接続してください。</p>	
	<p>アクセスポイントの電話番号が間違っている</p> <p>電話番号を確認してください。</p>	
	<p>ユーザIDまたはパスワードが間違っている</p> <p>プロバイダから発行されたユーザID、パスワードの半角、大文字、小文字が正しく入力されているか確認してください。</p>	
	<p>自動発信の規制にかかっている</p> <p>通信相手に接続できなかった場合にワイヤレスシリーズ親機が同一番号に再発信する回数は、最初の発信から数えて3分間で2回以内に制限されています。別の番号にかけるか、時間を置いてから接続しなおしてください。</p>	

こんなとき	原因と対策	参照ページ
インターネットに接続できない	<p>DNSサーバアドレスが間違っている</p> <p>プロバイダに指定されたDNSサーバアドレスを設定してください。</p>	
	<p>Windows95/Windows98で、TCP/IPが2重に登録されている</p> <p>すでにTCP/IPがある場合はインストールは不要です。複数インストールされていると接続できなくなるので、1つだけ残して他は削除してください。</p>	P.31
	<p>モデム定義ファイルがない</p> <p>Windows95からWindows98にバージョンアップした場合などに、すでに組み込んであったモデム定義ファイルが削除されることがあります。「モデム情報ファイルをインストールする」を参照してインストールしてください。</p>	95/98 P.22 2000 P.65
	<p>ダイヤルアップネットワークの設定が間違っている</p> <p>ダイヤルアップネットワークのプロパティで、サーバの種類の詳細オプションをクリックしてすべて にします。</p> <p>Windows95は「ネットワークへのログオン」「ソフトウェア圧縮をする」「暗号化パスワードを使う」の3つ、Windows98は「データの暗号化を使用する」「この接続のログファイルを記録する」の2つの項目があります。使用できるプロトコルはネットワークプロトコルで「TCP/IP」のみにします。</p> <p>TCP/IP設定 ボタンをクリックし、「IPヘッダー圧縮を使う」にします。リモートネットワークの「ゲートウェイを使う」は変更しません。</p>	P.28

こんなとき	原因と対策	参照ページ
『らくらくウィザード』や『らくらくバージョンアップ』が起動しない 「COMポートは他のプログラムで使用されています。」と表示される	COMポートやプリンタポートを使用する他のアプリケーションが起動している アプリケーションを終了してください。	
	『RC35らくらくウィザード』と『RC35らくらくバージョンアップ』を同時に起動しようとした 同時には使用できません。	
	ワイヤレスシリーズ親機または携帯電話で通信中である 通信を終了してください。	
『らくらくウィザード』が起動しない モデム情報ファイルのインストールができない 「ログオン中のユーザーにアドミニストレータ権限がありません」と表示される	Windows2000でAdministratorの権限がない Administrator権限のあるユーザー名でログオンし直して設定してください。 以下の操作でAdministratorの設定をしてください。 1. スタート [設定] [コントロールパネル]を選択します。 2. [ユーザーとパスワード]アイコンをダブルクリックします。 3. 「このコンピュータを使うには、ユーザー名とパスワードを入力する必要があります」を <input checked="" type="checkbox"/> にします。 4. 追加 ボタンをクリックし、画面の指示にしたがって設定します。	
『らくらくバージョンアップ』でのバージョンアップが失敗した	バージョンアップの途中でRC35とパソコンの接続が外れた 正しく接続したあと、再度『RC35らくらくバージョンアップ』を実行してください。	
	バージョンアップするファームウェアのファイルが間違っている バージョンアップ用ファームウェアのファイルを確認してください。RC35用以外のファームウェアでバージョンアップすることはできません。	P.170

こんなとき	原因と対策	参照ページ
『AtermRC35ユーティリティ集』のCD-ROMを使用したあとにパソコンが動作しなくなる	<p>『AtermRC35ユーティリティ集』のメニューを終了していない</p> <p>『AtermRC35ユーティリティ集』のメニュー画面を終了させてからCD-ROMを取り出さないと、パソコンが動作しなくなることがあります。メニュー画面の 終了 ボタンをクリックし、CD-ROMドライブのアクセスランプが消えたことを確認してからCD-ROMを取り出してください。</p>	
ハイパーターミナルをインストールしたい	<p>Windows95/Windows98の設定を確認するときにはハイパーターミナルを使用します。パソコンによってはハイパーターミナルがインストールされていないので、次の手順でインストールします。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. スタート [設定] [コントロールパネル] を選択します。 2. [アプリケーションの追加と削除] アイコンをダブルクリックします。 3. [Windowsファイル] タブをクリックします。 4. 「通信」を選択し、詳細 ボタンをクリックします。 5. 「ハイパーターミナル」をクリックして <input checked="" type="checkbox"/> にし、OK ボタンをクリックします。このとき「CD-ROMが必要です」と表示された場合は、WindowsのCD-ROMをセットします。 	P.139
Atermの設定を最初からやり直したい 購入したときの状態にもどしたい	<p>RC35の設定を初期化します。ただし、増設登録の設定以外のすべての設定値が購入時の状態にもどるのでご注意ください。</p> <p>ATコマンドの「AT&Fn」コマンドを実行します。</p>	P.142
海外で使用したい	<p>RC35は日本国内で使用することを前提としているため、海外では使用できません。また日本語OS以外では使用できません。</p>	

ご注意

掲載されているお問い合わせ先、修理受付窓口などは変更されている場合があります。

最新の情報は、本マニュアルが掲載されているページの  必ずお読みください「お問い合わせ・アフターサービス(PDF)」を参照してください。



お願い

ご注意

掲載されているお問い合わせ先、修理受付窓口などは変更されている場合があります。

最新の情報は、本マニュアルが掲載されているページの  必ずお読みください「お問い合わせ・アフターサービス (PDF)」を参照してください。

ご注意

掲載されているお問い合わせ先、修理受付窓口などは変更されている場合があります。

最新の情報は、本マニュアルが掲載されているページの  必ずお読みください「お問い合わせ・アフターサービス(PDF)」を参照してください。

ご注意

掲載されているお問い合わせ先、修理受付窓口などは変更されている場合があります。

最新の情報は、本マニュアルが掲載されているページの  必ずお読みください「お問い合わせ・アフターサービス(PDF)」を参照してください。

ご注意

掲載されているお問い合わせ先、修理受付窓口などは変更されている場合があります。

最新の情報は、本マニュアルが掲載されているページの  必ずお読みください「お問い合わせ・アフターサービス(PDF)」を参照してください。

ご注意

掲載されているお問い合わせ先、修理受付窓口などは変更されている場合があります。

最新の情報は、本マニュアルが掲載されているページの  必ずお読みください「お問い合わせ・アフターサービス(PDF)」を参照してください。

ご注意

掲載されているお問い合わせ先、修理受付窓口などは変更されている場合があります。

最新の情報は、本マニュアルが掲載されているページの  必ずお読みください「お問い合わせ・アフターサービス(PDF)」を参照してください。

ご注意

掲載されているお問い合わせ先、修理受付窓口などは変更されている場合があります。

最新の情報は、本マニュアルが掲載されているページの  必ずお読みください「お問い合わせ・アフターサービス(PDF)」を参照してください。



ご注意

掲載されているお問い合わせ先、修理受付窓口などは変更されている場合があります。

最新の情報は、本マニュアルが掲載されているページの  必ずお読みください「お問い合わせ・アフターサービス(PDF)」を参照してください。



お願い

一部拠点において営業時間、定休日が異なる場合があります。ご利用の際には事前にお問い合わせください。

ご注意

掲載されているお問い合わせ先、修理受付窓口などは変更されている場合があります。

最新の情報は、本マニュアルが掲載されているページの ⚠️ 必ずお読みください「お問い合わせ・アフターサービス(PDF)」を参照してください。

ご注意

掲載されているお問い合わせ先、修理受付窓口などは変更されている場合があります。

最新の情報は、本マニュアルが掲載されているページの  必ずお読みください「お問い合わせ・アフターサービス(PDF)」を参照してください。

6 . 付録

ワイヤレス子機間で内線データ通信する場合の設定や、ATコマンド、用語などを紹介します。

接続する親機を選択

内線データ通信

ハイパーターミナル

AT コマンド

RC35 をバージョンアップする

RC35 仕様

用語集

Windows® 95 は Microsoft® Windows® 95 operating system の略です。
Windows® 98 は Microsoft® Windows® 98 operating system の略です。
Windows® 2000 は Microsoft® Windows® 2000 operating system の略です。
Windows® CE は Microsoft® Windows® CE operating system の略です。
WindowsNT® 4.0 は Microsoft® WindowsNT® operating system Version 4.0 の略です。

6-1. 接続する親機を選択

1 台の RC35 を最大 4 台のワイヤレスシリーズ親機の子機として増設登録できますが、その中で同時に通信ができるのは 1 台です。

増設登録した複数の親機の中から接続する親機を指定します。設定はハイパーターミナルでおこないます。

システム番号の設定

ワイヤレスシリーズ親機は増設登録の際、RC35 のシステム番号 10 ~ 13 に登録します。親機が 1 台の場合はシステム番号 10 に登録します。複数台の親機を登録した場合は以下の手順で切り替えます。

- 1 パソコンを起動し、RC35 を PC カードスロットに取り付けます。
- 2 [ハイパーターミナル] を起動します。(「6-3. ハイパーターミナルを使う」 P.139)
- 3 次の AT コマンドを入力し、登録されているシステム番号を確認します。

AT # SY?

現在使用しているシステム番号が表示されます。

- 4 次の AT コマンドで通信する親機を指定します。

AT # SY1 = システム番号 10 ~ 13

例 システム番号 11 に登録した親機に切り替える場合

AT # SY1 = 11

[ハイパーターミナル] 画面に「OK」と表示されます。

- 5 [ハイパーターミナル] を終了します。



お願い

ハイパーターミナルの操作については、「6-3. ハイパーターミナルを使う」(P.139) を参照してください。

6-2. 内線データ通信

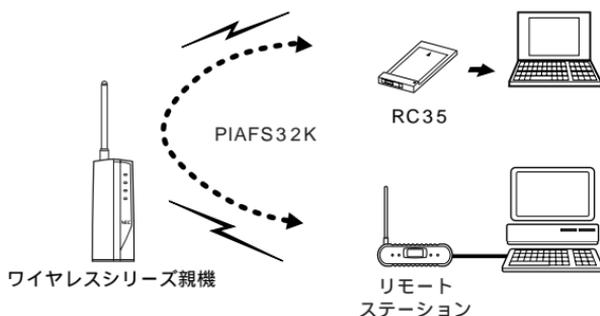
ワイヤレスシリーズ親機（AtermWM56、IW50/D、WX1、IW60、IW60HS DSU）に増設登録された子機どうし、または親機に接続されているパソコンに対して内線でデータのやりとりができます。また内線データ通信を利用してファイルやプリンタを共有することができます。

子機はRC35のほかに、AtermRS20などのリモートステーションが利用できます。

親・子機間通信



子機間通信



「使用前に

Windows95/Windows98
をお使いの方は

Windows2000
をお使いの方は

WindowsCE
をお使いの方は

困ったときには

付録

発信のしかた

ワイヤレスシリーズ親機のデータポートの内線番号は81、子機は親機への増設登録の際に内線番号91～96のいずれかが割り当てられます。内線番号を指定して内線データ通信をします。

ダイヤルアップでの発信

ダイヤルアップネットワークの「プロパティ」で「市外局番とダイヤルのプロパティを使う」を にし、「電話番号」に内線番号と以下の文字を付けて発信します。(Windows® 95/Windows® 98 P.51、Windows® 2000 P.91、Windows® CE P.107)

通信先	経由する親機	データ通信の種類	発信
親・子機間通信	IW50/D	PIAFS64K	内線番号の後に「PD」を付ける
	IW50/D, IW60, IW60HS DSU	PIAFS32K	内線番号の後に「PF」を付ける
子機間通信	WM56, IW50/D, WX1, IW60, IW60HS DSU	PIAFS32K	

ATコマンドでの発信

親機への発信

発信先	データ通信の種類	ATコマンド
IW50/D	PIAFS64K	ATD# * 81PD
IW50/D, IW60, IW60HS DSU	PIAFS32K	ATD# * 81PF

子機への発信 (PIAFS32K)

経由する親機	子機内線番号	ATコマンド
WM56	91	ATD# *1PF
	96	ATD# *6PF
IW50/D, WX1, IW60, IW60HS DSU	91	ATD# *91PF
	96	ATD# *96PF



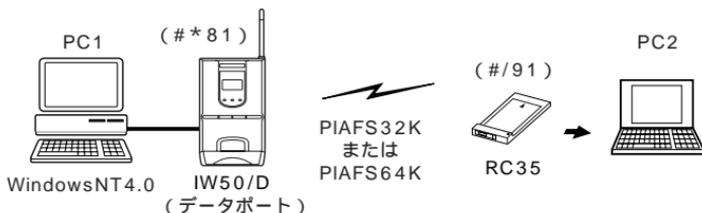
着信のときは相手からの通信速度を自動的に判別して着信します。



詳細はワイヤレスシリーズ親機の取扱説明書を参照してください。

ファイルの共有

RC35などの子機を接続したWindows95/Windows98/Windows2000のパソコンとIW50/Dを接続したWindowsNT® 4.0のパソコン間で、ファイルまたはプリンタの共有ができます。



ネットワークコンポーネントの確認

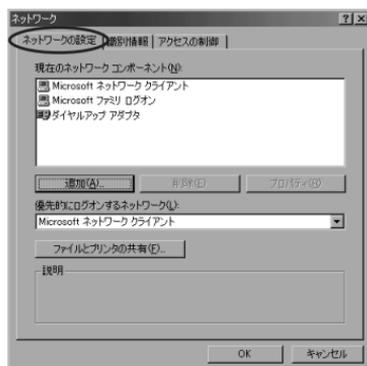
ファイルを共有する各パソコンに、「NetBEUI」が組み込まれているかそれぞれ確認します。

- ① **スタート** [設定] [コントロールパネル] を選択します。
- ② [ネットワーク] アイコンをダブルクリックします。



ネットワーク

- ③ [ネットワークの設定] タブをクリックします。



[ネットワークの設定] 画面が表示されます。

- ④ 「現在のネットワークコンポーネント」に次のものが含まれているか確認します。

NetBEUI
Microsoft ネットワーククライアント
Microsoft ネットワーク共有サービス

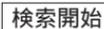
- ⑤ **キャンセル** ボタンをクリックし、[ネットワーク]画面を終了します。



お願い

WindowsNT4.0 の場合は、あらかじめ「RAS (リモートアクセスサービス)」を組み込んでおく必要があります。またRASの設定で着信とリモートアクセスを許可するように設定しておきます。ネットワークプロトコルはそれぞれの環境に合わせて、NetBEUIプロトコルまたはTCP/IPプロトコルを組み込みます。RASについてはWindowsNT4.0の取扱説明書を参照してください。

「NetBEUI」が組み込まれていることを確認したあとに

- ① 共有するフォルダ名またはプリンタ名を PC1 または PC2 (パソコン名例) に設定したあと、各パソコンを再起動します。
共有設定については、パソコンの取扱説明書を参照してください。
- ② PC2 から PC1 へダイヤルアップ接続します。
例 RC35 から IW50/D への発信
「電話番号」に「# * 81」を入力
例 IW50/D から内線番号 91 の RC35 への発信
「電話番号」に「# /91」を入力
- ③ PPP による認証をおこないます。
- ④  [検索] [ほかのコンピュータ] を選択します。
- ⑤ [検索 : コンピュータ] 画面の「名前」に「PC1」または「PC2」を入力し、 ボタンをクリックします。
① で指定したフォルダ名またはプリンタ名が表示されます。

6-3. ハイパーターミナルを使う

Windows95/Windows98/Windows2000に添付されている『ハイパーターミナル』という通信ソフトを使って、ATコマンドを入力することができます。ATコマンドを使って接続の確認や設定の変更ができます。

ハイパーターミナルがパソコンにインストールされていない場合は、「5-1. 困ったときのQ&A」(P.118)を参照してインストールしてください。

接続を確認する

RC35 とパソコンが正しく接続されているか確認します。

- 1 パソコンを起動し、PC カードスロットにRC35 を取り付けておきます。

- 2 **スタート** [プログラム] [アクセサリ] [通信] [ハイパーターミナル] を選択します。

Windows95 の場合は **スタート** [プログラム] [アクセサリ] [ハイパーターミナル] を選択します。

[Hyper Terminal] ウィンドウが表示されます。

- 3 [Hypertrm.exe] アイコンをダブルクリックします。



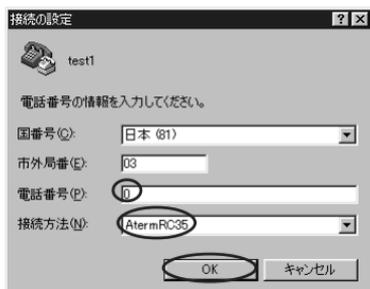
Hypertrm.exe

[接続の設定] 画面が表示されます。

- 4 「名前」に任意の名前を入力し、**OK** ボタンをクリックします。
ここでは「test1」と入力します。



- 5 「電話番号」に任意の数字（例：0）を入力し、「接続方法」で「AtermRC35」を選択して **OK** ボタンをクリックします。



[接続] 画面が表示されます。

- 6 **キャンセル** ボタンをクリックします。



[ハイパーターミナル] ウィンドウが表示されます。

- 7 パソコンのキーボードから半角で「ati3」と入力し、**Enter** キーを押します。



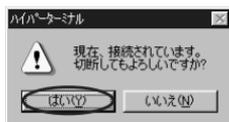
- 8 「AtermRC35 NEC Corporation」と表示されれば、RC35は正しく接続されています。



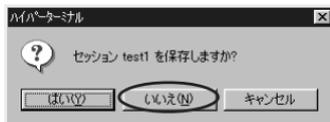
上記表示が出ないときは「5-1. 困ったときのQ&A」(P.114)を参照してください。

- 9 [ファイル] [ハイパーターミナルの終了]を選択します。
「現在、接続されています。切断してもよろしいですか?」と表示されます。

- 10 ボタンをクリックします。



- 11 ボタンをクリックします。



ハイパーターミナルが終了します。



ATコマンドの詳細は「6-4. ATコマンド」(P.142)を参照してください。

6-4. AT コマンド

AT コマンドは米国 Hayes 社が自社用モデムのために開発した非同期端末用自動発着信方式の通信ソフトウェアの一種で、コマンドのほとんどが「AT」で始まることからこう呼ばれています。

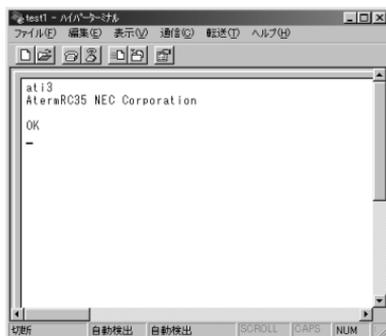
Aterm は AT コマンドに準拠し、さらに拡張コマンドの一部や独自のコマンドをサポートしています。

AT コマンドを使って RC35 の状態を確認したり、設定を変更することができます。

AT コマンドの使い方

Windows95/Windows98/Windows2000 に標準で添付されている「ハイパーターミナル」を使用します。

ハイパーターミナルの操作については、「6-3. ハイパーターミナルを使う」(P.139) を参照してください。



AT コマンドの構成

AT コマンドは「コマンド」「S レジスタ」「リザルトコード」の3つから成り立っています。

コマンド

パソコンからRC35に対して動作を指示するときに「AT コマンド」を使います。

AT コマンドは次の形式で入力します。

AT	コマンド	CR	LF
----	------	----	----

コマンドは半角の英数字を入力します。

英字は大文字か小文字のどちらかに統一して入力します。大文字・小文字を組み合わせて用いることはできません。

AT at x At aT

最大256字以内で複数のコマンドを連続して入力できます。256字を超えた場合は「ERROR」をパソコンに返します。

コマンドによってはコマンドのうしろにパラメータが必要なものがあります。パラメータが省略されると値は「0」とみなされます。

「CR」(改行キーやreturnキー)は復帰文字で、コマンドの区切りになります。復帰文字はS3レジスタで変更できますが、通常はそのまま使います。

「LF」は改行文字で、省略できます。改行文字はS4レジスタで変更できますが、通常はそのまま使います。

コードはASCIIを使用します。

AtermはATコマンドからパソコンのデータポート速度、データビット長、パリティを自動的に判別し、それに合わせます。

コマンドは次の3種類があります。

共有ATコマンド：親機経由、携帯電話接続の両方で使えるコマンド

携帯用ATコマンド：RC35を携帯電話に接続したときに使うコマンド

子機用ATコマンド：RC35をワイヤレスシリーズ親機の子機として使用するときにするコマンド

S レジスタ

コマンドを実行する際に参照するのが「S レジスタ」です。
S レジスタは、自動発着信の動作を規定する各種のパラメータ(RING回数、時間、文字)を格納するレジスタで、S レジスタの内容を指定することによって、発着信動作を詳細に規定することができます。
S レジスタの内容は「ATSn」コマンドで変更できます。

リザルトコード

パソコンから RC35 に対して実行したコマンドの結果や着信の報告を「リザルトコード」といいます。
リザルトコードの形式はV コマンドで設定します。次の2種類があります。

英語表示のリザルトコード(初期値)

CR	LF	リザルトコード	CR	LF
----	----	---------	----	----

(英語)

「CR」(改行キーやreturnキー)は復帰文字で、コマンドの区切りになります。復帰文字はS3 レジスタで変更できますが、通常はそのまま使います。

「LF」は改行文字です。改行文字はS4 レジスタで変更できますが、通常はそのまま使います。

コードはASCIIを使用します。

数字表示によるリザルトコード

リザルトコードが数字表示になっていると通信できない場合があります。

リザルトコード	CR
---------	----

(数字)

「CR」(改行キーやreturnキー)は復帰文字で、コマンドの区切りになります。復帰文字はS3 レジスタで変更できますが、通常はそのまま使います。復帰文字を変更すると通信できない場合があります。

コードはASCIIを使用します。

RC35 が対応する AT コマンド

- : コマンド実行時に設定を保存し、電源を切っても設定が保持されます。
- : & W コマンドを実行すると電源を切っても保持されます。

種類	コマンド	内容	備考	種類	コマンド	内容	備考
共用	A	手動着信		共用	&Kn	シリアルポートフロー制御	
	A/	コマンド再実行			&P	自局番号表示	
	D	発信			&Sn	回路DR制御	
	En	エコー設定			&Wn	不揮発性メモリへの登録	
	H	切断			&Yn	メモリオートロード	
	In	装置コード			#SBn	発信者番号通知設定	
	On	オンラインモードへ復帰			¥S	レジスタ設定値表示	
	Qn	アダプタリザルトコード表示スイッチ			¥Vn	リザルトコードの表示	
	Sn=m	Sレジスタ表示			%Cn	圧縮プロトコル設定	
	Sn?	Sレジスタのリード			+++	オンラインコマンドモードへ移行	
	Un	発信番号表示有無の設定			Bn	ITU-T規格またはBell規格の選択	
	Vn	リザルトコード制御			Cn	課金情報表示 / 圏外・圏内表示設定	
	Zn	アダプタリセット			Fn	公衆回線速度設定	
	携帯	&Cn	回路CD制御			Xn	拡張応答コードの選択とダイヤルトーンの検出
&Dn		回路ER制御		#PCn	モデム間圧縮設定		
&En		速度表示の設定		¥An	MNP最大ブロックサイズ設定		
&Fn		フルリセット		¥Cn	オートリライアブルバッファの設定		

「」使用の前に

Windows95/Windows98
をお使いの方は

Windows2000
をお使いの方は

WindowsCE
をお使いの方は

困ったときには

付録

種類	コマンド	内容	備考	種類	コマンド	内容	備考
携帯	¥Gn	ノーマルモード時のモデム間フロー制御設定		携帯	-Q	自動フォールバック選択	
	¥Nn	エラー訂正動作モードを設定			:E	V.32補正イコライザー選択	
	¥Xn	MNP10設定			!	現在の携帯電話の状態表示	
	%A	フォールバックキャラクタ設定			#PSn=m	パワーセーブモード設定	
	%En	回線品質モニタと自動リトレイン設定		子機	#SNn?	内線番号表示	
	+NO=	切断時理由表示設定			#SYn=m	通信モードの設定	
)M	公衆回線での信号レベルの自動調整選択			#SY?	通信モードの状態の表示	
	*H	接続速度設定 (MNP10)					

共用 AT コマンド

A

機能	手動着信
書式	ATA
解説	着信処理を行う。
パラメータ	なし

A/

機能	直前に実行したコマンドの再実行
書式	A/ (AT は付与しないこと)
解説	直前に実行したコマンドを再実行する。このコマンドは「/」で終了しなければならない(2キャラクタ完結)。また、ENTERの入力は不要。
パラメータ	なし

D

機能	発信
書式	ATD
解説	このコマンドに続くパラメータに従って発信する。コマンド実行中にキャラクタを受信した場合は発信を中止する。
パラメータ	L: 最終番号の再ダイヤル (システム指定付発信の再ダイヤルも含む。)

On

機能 書式 解説	オンラインモードへ復帰 ATOn(n=0,1,2 ~) 現在通信している通信モード(9600bps通信モードor内線通信モード)のオンラインコマンドモード(エスケープモード)から、オンラインモードへ戻る。
パラメータ	< 9600bps 通信中 > 0 : オンライン状態への復帰 1 : オンライン状態へのリトレイン後、復帰 2 以上 : パラメータ 0 と同等の動作を行う < 内線通信中 > パラメータに関わらず、オンライン状態への復帰

Qn

機能 書式 解説 パラメータ	アダプタリザルトコード表示スイッチ ATQn(n=0,1) デフォルト:0 DTEへのリザルトコードを表示するかどうか設定する。 0 : アダプタリザルトコードを表示する 1 : アダプタリザルトコードを表示しない
-------------------------	--

Sn=m

機能 書式 解説	Sレジスタの表示 ATSn=m(n:Sレジスタ番号,m:値) アダプタはSレジスタn番にDTEより入力された値mを書き込む。
パラメータ	n : レジスタ番号 m : 設定値 n,m は 10 進数で指定する。

Sn?

機能 書式 解説 パラメータ	Sレジスタのリード ATSn?(nはSレジスタ番号) Sレジスタn番の値をDTEへ表示する。 n : レジスタ番号 n は 10 進数で指定する。
-------------------------	---

Un

機能 書式 解説	発着番号表示有無の設定 ATUn(n=0,1,2,3) デフォルト:0 アダプタが着信した時、自分の電話番号や相手の電話番号(着ID)を表示するか否かを設定する。 本コマンドはATQ0, ATV1の場合に有効となる。
パラメータ	0 : 発信番号の表示無し、着信番号の表示無し 1 : 発信番号の表示有り、着信番号の表示無し 2 : 発信番号の表示無し、着信番号の表示有り 3 : 発信番号の表示有り、着信番号の表示有り

リザルトコード 着信時に RING に続けて、
発信番号においては
[CR][LF]CALLING-ID=発アドレス/発サブアドレス[CR]
[LF]
着信番号においては
[CR][LF]CONNECTED-ID=着アドレス/着サブアドレス
[CR][LF]
が表示される。

Vn

機能 リザルトコード制御
書式 ATVn(n=0,1) デフォルト:1
解説 全てのリザルトコードを数字表記または英文字表記に設定する。
パラメータ 0:数字表記(10進)
1:英文字表記

Zn

機能 アダプタリセット
書式 ATZn(n=0,1)
解説 すべてのレジスタを AT&Wn であらかじめ不揮発性メモリに記
憶された内容に戻す。本コマンドは、単独コマンドとする。通
信中に本コマンドが入力された場合、回線の切断処理を行う。
パラメータ 0:不揮発性メモリ0の内容で初期化する。
1:不揮発性メモリ1の内容で初期化する。

&Cn

機能 回路CD制御
書式 AT&Cn(n=0,1) デフォルト:1
解説 DTE への回路 CD 信号の動作条件を選択する。
パラメータ < 9600bps 通信中 >
0:CD は常にオン
1:CD は相手モデムからのキャリアが検出されている間オン
< 子機通信中 >
0:回路 CD 信号常時オン
1:PIAFS リンクが張られているときはオン

&Dn

機能 回路 ER 制御
書式 AT&Dn(n=0,1,2,3) デフォルト:2
解説 アダプタは DTE から受け取る回路 ER 信号がオン/オフ遷移し
た時の動作を選択する。
パラメータ 0:ER 信号の状態を無視する(常にオンとみなす)
1:ER 信号がオンからオフに変わるとオンラインコマンド状
態になる
2:ER 信号がオンからオフに変わると回線を切断し、オフラ
インコマンド状態になる
3:ER 信号がオンからオフに変わると電源投入時と同じ状態
になる(Z コマンド実行)

&En

機能	速度表示の設定
書式	AT&En(n=0,1) デフォルト:0
解説	速度の表示を行う場合に、速度表示を無線区間の回線速度とするか、DTEシリアル速度とするかを設定する。(AT≠V1～6設定時に有効)
パラメータ	0 : 回線速度を表示する 64K データ通信の場合 : CONNECT 64000 32K データ通信の場合 : CONNECT 32000 9600bps 通信の場合 : CONNECT 9600 1 : DTEシリアル速度を表示する

&Fn

機能	フルリセット
書式	AT&Fn(n=0,1,2) デフォルト:0
解説	現在のレジスタ設定値と不揮発性メモリを工場出荷時のパラメータに復元する。通信中に本コマンドが入力された場合、回線の切断処理を行う。
パラメータ	0 : 現在のレジスタ設定値を工場出荷時のパラメータに復元する。 1 : 現在のレジスタ設定値とメモリ0を工場出荷時のパラメータに復元する。 2 : 現在のレジスタ設定値とメモリ1を工場出荷時のパラメータに復元する。

&Kn

機能	シリアルポートフロー制御
書式	AT&Kn(n=3,4) デフォルト:3
解説	アダプタとDTEの間のフロー制御を設定する。
パラメータ	3 : RS/CS (ハードウェア) フロー制御。 4 : XON/XOFF (ソフトウェア) フロー制御。

&P

機能	自局番号表示
書式	AT&P
解説	外部接続したドッチーモ (携帯) / 携帯電話の自局番号および子機内線番号を表示する
表示形式	携帯電話自局番号が1111、子機内線番号が91の場合 PDC-ID=1111 OS-ID=91

&Sn

機能	回路DR制御
書式	AT&Sn(n=0,1) デフォルト:0
解説	回路DR信号の制御を設定する。
パラメータ	0 : 常時オン 1 : ER信号オン時にDR信号オン ER信号オフ時にDR信号オフ

&Wn

機能	不揮発性メモリへの設定記憶
書式	AT&Wn(n=0,1) デフォルト:0
解説	アダプタは現在の設定値を記憶する。
パラメータ	0 : 現在のアダプタの状態を不揮発性メモリ 0 に書き込む 1 : 現在のアダプタの状態を不揮発性メモリ 1 に書き込む

&Yn

機能	メモリオートロード
書式	AT&Yn (n=0,1) デフォルト: 0
解説	電源が投入されたときに有効となる不揮発性メモリ 0、1 のいずれかの選択を設定する。
パラメータ	0 : 電源投入時に不揮発性メモリ 0 を読み出し 1 : 電源投入時に不揮発性メモリ 1 を読み出し

#SBn

機能	発信者番号通知設定
書式	AT#SBn(n=0,1) デフォルト:1
解説	発信者の番号を相手に通知する / しないを設定する。
パラメータ	0 : 通知しない 1 : 契約者番号を通知する

¥S

機能	レジスタ設定値表示
書式	AT¥S
解説	レジスタ設定値を表示する

¥Vn

機能	リザルトコードの表示
書式	AT¥Vn (n = 0, 1, 2, 3, 4, 5, 6) デフォルト: 0
解説	リザルトコードの表示形式を設定する。
パラメータ	0 : CONNECT のみ表示 1 : CONNECT + 回線速度 (またはシリアル速度) を表示 2 : CONNECT + 回線速度 (またはシリアル速度) + 無線区間プロトコルを表示 3 : CONNECT + 回線速度 (またはシリアル速度) + 無線区間圧縮を表示 4 : CONNECT + 回線速度 (またはシリアル速度) + 公衆回線キャリア速度を表示 5 : CONNECT + 回線速度 (またはシリアル速度) + 公衆回線プロトコルを表示 6 : CONNECT + 回線速度 (またはシリアル速度) + 公衆回線圧縮を表示

%Cn

機能	圧縮プロトコル設定
書式	AT%Cn (n = 0, 2) デフォルト : 2
解説	データ圧縮プロトコルを設定する。
パラメータ	0 : 圧縮なし 2 : V.42bis

+++

機能	エスケープシーケンス (オンラインコマンド状態への移行)
書式	+++
解説	DTEにOKリザルトコードを表示し、オンライン状態からオンラインコマンド状態に移行する。エスケープガード時間 (S12 レジスタ) で設定した時間以上入力がなく、エスケープガード時間内にエスケープキャラクタ (S2 レジスタ) 3文字を検出し、その後エスケープガード時間入力がない場合のみエスケープシーケンスとみなす。

携帯用 AT コマンド

Bn

機能	ITU-T 規格または Bell 規格の選択
書式	ATBn (n=0,1) デフォルト : 0
解説	通信規格 ITU-T または Bell の選択を行う。
パラメータ	0:ITU-T 規格指定 1: Bell 規格指定

Cn

機能	課金情報 (通話料金) 圏外 / 圏内表示
書式	ATCn (n=0,1,2,3) デフォルト:0
解説	< 課金情報表示 > ドッチーモ携帯電話での通信、携帯電話での通信終了時、通信にかかった料金を次の形式で表示する。 CHARGE=n (n は 2 桁以上の数字、単位は円) 通信途中に何らかの原因で突然回線が切断された場合などは、通話料金が表示されない場合 (「* *」と表示) がある。 ATC1、C3 を設定した場合、着信時に「O」が表示される場合がある。 < 圏外 / 圏内表示 > 携帯電話接続時、圏外 / 圏内表示情報を次の形式で表示する。 圏内 圏外 「OUT OF SERVICE」 圏外 圏内 「IN DATA SERVICE」
パラメータ	0 : 送受信データ量表示または課金表示しない、圏外 / 圏内表示しない 1 : 送受信データ量表示または課金表示する、圏外 / 圏内表示しない 2 : 送受信データ量表示または課金表示しない、圏外 / 圏内表示する 3 : 送受信データ量表示または課金表示する、圏外 / 圏内表示する

Fn

機能	公衆回線速度の選択
書式	ATFn(n=0 ~ 10) デフォルト: 0
解説	指定されたパラメータに従って回線速度を選択する。
パラメータ	0 : 自動検出モードを選択 1 : 回線速度として、B コマンド設定に従って V.21 または Bell103 を選択 3 : 回線速度として、V.23 送信 75bps 受信 1200bps を選択 4 : 回線速度として、B コマンド設定に従って V.22 または Bell212A 1200bps を選択 5 : 回線速度として、V.22bis 2400bps を選択 6 : 回線速度として、V.32 または V.32bis 4800bps を選択 7 : 回線速度として、V.32bis 7200bps を選択 8 : 回線速度として、V.32bis または V.32bis 9600bps を選択 9 : 回線速度として、V.32bis 12000bps を選択 10 : 回線速度として、V.32bis 14400bps を選択

Xn

機能	拡張応答コードの選択とダイヤルトーンの検出
書式	ATXn(n=0,1,2,3,4) デフォルト:4
解説	9600bps通信モード時ビジーートン、ダイヤルトーン検出の設定
パラメータ	0,1 : ビジーートン検出無し、ダイヤルトーン検出無し 2 : ビジーートン検出無し、ダイヤルトーン検出有り 3 : ビジーートン検出有り、ダイヤルトーン検出無し 4 : ビジーートン検出有り、ダイヤルトーン検出有り

#PCn

機能	モデム間圧縮プロトコル設定
書式	AT#PCn (n=0,1,2,3) デフォルト: 1
解説	9600bps 通信モード時モデム間圧縮設定を行う
パラメータ	0 : データ圧縮無し 1 : MNP5 データ圧縮と V.42bis データ圧縮の両方が可能。 V.42bis データ圧縮が優先 2 : MNP5 データ圧縮 3 : V.42bis データ圧縮

¥An

機能	MNP 最大ブロック長の設定
書式	AT¥An (n = 0, 1, 2, 3) デフォルト: 3
解説	MNP 接続をするとき、ブロックサイズを設定する。
パラメータ	0 : MNP 最大ブロック長を 64 バイト 1 : MNP 最大ブロック長を 128 バイト 2 : MNP 最大ブロック長を 192 バイト 3 : MNP 最大ブロック長を 256 バイト

¥Cn

機能 書式 解説	オートリライアブルバッファの設定 AT¥Cn (n = 0, 1, 2) デフォルト : 2 オートリライアブルモードで着信したとき、約5秒間で相手の モデムがMNPをサポートしているか、サポートしていないか を判断する。 この間に、相手モデムからMNPリンク要求以外のデータを受 信したときデータをバッファに入れるか入れないかを指定する。
パラメータ	0 : リンク確立の間は、データをバッファに入れない 1 : リンク確立の間でも、データをバッファに入れる 2 : リンク確立の間でも、データをバッファに入れる フォールバック機能有効

¥G

機能 書式 解説	ノーマルモード時のフロー制御の選択(XON,XOFF) AT¥Gn (n = 0, 1) デフォルト : 0 ノーマルモード時の公衆回線間のXON,XOFFフロー制御の設 定を行う
パラメータ	0 : 公衆回線間のフロー制御をしない 1 : 公衆回線間のフロー制御をする

¥Nn

機能 書式 解説 パラメータ	エラー訂正モードの設定 AT¥Nn (n = 0, 2, 3, 4, 5) デフォルト : 3 エラー訂正動作モードを設定する 9600bps 通信時 0 : ノーマルモードを選択 2 : リライアブル(エラー訂正)モードを選択 3 : オートリライアブルモードを選択 4 : LAPM エラー訂正モードの選択 5 : MNP エラー訂正モードの選択
-------------------------	---

¥Xn

機能 書式 解説 パラメータ	MNP10 選択 AT¥Xn (n = 0, 1) デフォルト : 0 MNP10の使用の有無を設定する。 0 : MNP10を使用する 1 : MNP10を使用しない
-------------------------	--

%A

機能 書式 解説 パラメータ	フォールバックキャラクタ設定 AT%A n (n = 0, 1 ~ 127) デフォルト : 0 MNPまたはLAPMにおいてオートリライアブルモードで相手 モデムから送られてくるフォールバックキャラクタを設定する 0 : 設定しない 1 ~ 127 : 10進のASCIIコードで設定する
-------------------------	--

%En

機能
書式
解説
パラメータ

回線品質モニタとオートリトレインの設定
AT%En (n = 0, 1, 2, 3) デフォルト: 2
オートリトレインの使用を設定する
0: オートリトレインを行わない
1: オートリトレインを行う
2: 回線モニタリングする、フォールバック / フォールフォワードしない
3: 回線モニタリングする、フォールバック / フォールフォワードする

+NO=

機能
書式
解説

切断理由表示の設定
AT+NO=n (n = 0, 1) デフォルト: 0
回線切断時の切断理由を表示する。
相手応答なし
NO CARRIER:RECEIVED NO ANSWER
相手圏外 / 電源 OFF
NO CARRIER:RECEIVED NO RESPONSE
通話停止 / ドナーチャオ時間外
NO CARRIER:RECEIVED NO SERVICE
相手が着信拒否
NO CARRIER:RECEIVED REFUSED
発呼番号先が欠番
NO CARRIER:RECEIVED NOT FOUND NUMBER
CD 信号 OFF 検出による切断
NO CARRIER:RECEIVED CD-OFF
ER 信号 OFF 検出による切断
NO CARRIER:RECEIVED ER-OFF
ATH0 コマンドによる切断
NO CARRIER:RECEIVED ATH0
通信サービス圏外
NO CARRIER:OUT OF SERVICE
(注意) +NO=コマンドは&Fなどの初期化コマンドで初期化されない
0: 切断理由表示しない
1: 切断理由表示する

パラメータ

)M

機能
書式
解説
パラメータ

公衆回線での信号レベルの自動調整選択
AT)Mn (n = 0, 1) デフォルト: 1
¥N3、¥X0のときに、MNP10で接続を試みる場合の信号レベルを自動調節するかを選択する。
0: MNP10 接続時に信号レベルの自動調節をしない
1: MNP10 接続時に信号レベルの自動調節をする

* H

機能	接続速度設定(MNP10)
書式	AT * Hn (n = 0, 1, 2) デフォルト : 0
解説	相手が MNP10 の場合に接続動作を試みる速度を選択する
パラメータ	0 : 最高速の MNP10 接続速度を選択 1 : 1200bps の MNP10 接続速度を選択 2 : 4800bps の MNP10 接続速度を選択

- Q

機能	自動フォールバック選択(MNP10)
書式	AT-Qr(n = 0, 1) デフォルト : 1
解説	MNP クラス 10 での回線の状況が悪い場合に V.22 (1200bps)、V.22bis(2400bps)へ自動フォールバックするかを選択する
パラメータ	0 : V.22/V.22bis へのフォールバックを使用しない 1 : V.22/V.22bis へのフォールバックを使用する

: E

機能	V.32 補正イコライザー選択
書式	AT:Er(n = 0, 1) デフォルト : 1
解説	¥N3、¥X0 のときに V.32 補正イコライザーの使用を選択する
パラメータ	0 : V.32 補正イコライザーを使用しない 1 : V.32 補正イコライザーを使用する

!

機能	現在の携帯電話の状態表示
書式	AT!
解説	現在の携帯電話またはドッチーモの携帯電話の状態を表示する
パラメータ	圏外 : OUT OF SERVICE 音声 / データ待ち受け : IN DATA SERVICE 通話 / 通信中 : HAND SET IN USE その他 : ERROR

子機用 AT コマンド

#PSn=m

機能	パワーセーブモード設定
書式	AT#PSn=m(n=1,2,3 m=0,1,2) デフォルト: 1=2, 2=1, 3=1
解説	パワーセーブモードを設定する。
パラメータ	n = 1 : LED 表示 m = 0 : LED 表示しない (常に消灯) m = 1 : 通信状態変化時及び電源投入時 LED 表示する (通信状態が変化後及び電源投入後 10s で消灯する) m = 2 : 常時 LED 表示する n = 2 : 発信モード m = 0 : 発信モード m = 1 : 発信信モード m = 9 : Aterm 接続モード n = 3 : 圏外節電モード m = 0 : なし m = 1 : あり

#SNn?

機能	内線番号表示
書式	AT#SNn?(n=10~13)
解説	子機の電話番号を表示する。
パラメータ	n : 自営システム番号 10 ~ 13

#SYn=m

機能	通信モードの設定
書式	AT # SYn=m
解説	子機の通信モードの設定を行う。
パラメータ	n : システム設定種別 1 : 子機を一括指定する m : モード <u>SYSTEM 番号</u> 自営 10 ~ 13
例	システム番号を 11 に変更する場合 AT # SY1 = 11

#SY?

機能	通信モードの状態の表示
書式	AT # SY?
解説	子機の通信モード状態を表示する。
パラメータ	[CR][LF][SYSTEM 番号][CR][LF] m : モード <u>SYSTEM 番号</u> 自営 10 ~ 13

S レジスタ

種類	コマンド	内容	単位	初期値	設定範囲
共用	S0	自動着信するまでの呼出回数 0のときは自動着信しない 呼出回数1回は約3秒に相当	回	0	0~255
	S1	呼出時間 着信後の呼出経過時間(秒)を格納する	-	-	-
	S2	エスケープキャラクタ	-	43	0~127
	S3	キャリッジリターン(CR)キャラクタの設定	-	13	0~127
	S4	ラインフィールド(LF)キャラクタの設定	-	10	0~127
	S5	バックスペース(BS)キャラクタの設定	-	8	0~32
	S7	接続待ち時間の設定 発信後、設定時間以内に応答がない場合は切断する	秒	50	1~59
	S12	エスケープガード時間	1/50 秒	50 (=1秒)	1~255
	S32	XONキャラクタ ソフトフロー制御時の送信許可 キャラクタ(XON)を設定する	-	17	0~127
	S33	XOFFキャラクタ ソフトフロー制御時の送信禁止 キャラクタ(XOFF)を設定する	-	19	0~127
携帯	S6	ダイヤルトーンの最大待機時間(秒)	5	5	0~255
	S8	ダイヤルポーズ(,)時間(秒)	秒	3	0~255
	S46	データ圧縮制御 136:データ圧縮せずにエラー訂正を行う 138:データ圧縮及びエラー訂正を行う	-	138	136,138
	S48	V.42ネゴシエーションコントロール 0:ネゴシエーションを省略しLAPMで 接続 7:ネゴシエーションを行い接続 128:ネゴシエーションを省略	-	7	0,7,128

種類	コマンド	内容	単位	初期値	設定範囲
子機	S86	網切断理由 網から切断された理由を保持する	-	0	0 ~ 255
	S88	アダプタ切断理由 アダプタから通信を切断した場合、切断した理由を保持する	-	0	0 ~ 255
	S103	着サブアドレス区切り 着サブアドレスを付加して発信する場合の区切りを選択する 0 : / 1 : ¥ 2 : *	-	2	0 ~ 2
	S104	発サブアドレス区切り 発サブアドレスを付加して発信する場合の区切りを選択する 0 : # 1 : % 2 : &	-	0	0 ~ 2
	S141	通信速度設定 0 : 32kbps 1 : 64kbps	-	1	0,1,3
	S142	64kbps 32kbpsへのフォールバック指定 0 : フォールバック機能OFF 1 : フォールバック機能ON	-	1	0,1
	その他	未サポート	-	-	-

S142 レジスタ (フォールバック指定)

64K データ通信は PIAFS 2.0 版のデータ通信方式に準拠し、通信速度 64kbps (実効速度 58.4kbps) の高速データ通信を実現するサービスです。無線区間の 32K データ通信スロットを 2 つ同時に使用することで、64K データ通信を実現します。無線回線の状態によっては通信スロットを 2 つ確保できず 64K データ通信ができない場合があります。このような場合はフォールバック機能により、自動的に 32kbps に通信速度を落として再ダイヤルすることができます。フォールバックの指定は S142 レジスタでおこないます。

リザルトコード

接続リザルトコード

回線接続時に表示されるリザルトコードです。

数字表記	英文字表記	種別
10	2400	シリアル速度
11	4800	
12	9600	
16	19200	
17	38400	
18	57600	
19	115200	
67	V.42bis	無線区間圧縮
69	NONE	
82	PIAFS	無線回線プロトコル
85	PIAFS64	
90	PDC9600	
121	32000	回線速度
122	64000	
123	9600	
201	CARRIER 300	公衆回線キャリア速度
202	CARRIER 1200	
203	CARRIER 2400	
204	CARRIER 4800	
205	CARRIER 7200	
206	CARRIER 9600	
207	CARRIER 12000	
208	CARRIER 14400	
209	CARRIER 16800	
210	CARRIER 19200	

数字表記	英文字表記	種別
211	CARRIER 21600	公衆回線キャリア速度
212	CARRIER 24000	
213	CARRIER 26400	
214	CARRIER 28800	
215	CARRIER 31200	
216	CARRIER 33600	
230	PROTOCOL:NONE	公衆回線プロトコル
231	PROTOCOL:MNP4	
232	PROTOCOL:LAPM	
233	PROTOCOL:MNP10	
240	COMPRESSION:NONE	公衆回線圧縮
241	COMPRESSION:MNP5	
242	COMPRESSION:V.4 2bis	

ご利用の前に

Windows95/Windows98
をご利用の方は

Windows2000
をご利用の方は

WindowsCE
をご利用の方は

困ったときには

付
録

リザルトコード

パソコンに表示されるリザルトコードです。

数字表記	英文字表記	内容	適用
0	OK	コマンド正常実行	共用
1	CONNECT	接続完了	
2	RING	着信あり	
3	NO CARRIER	回線切断	
4	ERROR	コマンドエラー	
6	NO DIALTONE	ダイヤルトーン未検出	
7	BUSY	相手先ビジー	
8	NO ANSWER	相手先応答なし	
D	HAND SET IN USE	通話中	携帯
F	DELAYED	リダイヤル規制	共用
103	NOT READY	リダイヤル規制時間内表示	子機
104	OUT OF SERVICE	圏外	共用
105	IN SERVICE	圏内	
106	PS NO RESPONSE	応答なし	子機
107	RESTRICTION	発信規制中	
120	IN DATA SERVICE	利用可能状態	携帯
124	NOT CORRECT CHARACTER LENGTH:7	データ属性不一致	
125	NOT CORRECT PARITY BIT:NONE	データ属性不一致	
126	NOT CORRECT STOP BIT:1	データ属性不一致	
127	NOT CORRECT DATA COMPRESSION:NONE	データ属性不一致	
-	CALLING-ID=0312345678	発信ID表示	共用
-	CONNECTED-ID=0312345678	着信ID表示	
-	CHARGE=160	料金表示	

網切断理由 (S86 レジスタ)

数字表記	切断理由
00	切断理由なし
01	欠番
11	一時的障害
16	正常切断
17	着ユーザビジー
18	着ユーザレスポンスなし
19	相手ユーザ呼出中
20	相手ユーザ圏外
21	通信拒否
22	加入者番号変更
27	相手端末故障
28	無効番号フォーマット
34	利用可回線 / チャネルなし
38	網障害
42	交換機輻輳
44	要求回線 / チャネル利用不可
88	端末属性不一致

「」使用の前に

Windows95/Windows98
をお使いの方は

Windows2000
をお使いの方は

WindowsCE
をお使いの方は

困ったときには

付
録

アダプタ切断理由 (S88 レジスタ)

数字表記	理由	内容
00	通常の回線切断	通常の手回線切断
01	発着信衝突	発着信衝突の場合
03	番号情報不足	番号情報不足の場合
04	手動発信タイムアウト	手動発信タイムアウトの場合
05	自動発信タイムアウト	自動発信タイムアウトの場合
06	圏外	親機からの電波が届かない場所にいる場合
10	S7レジスタによるタイムアウト	S7レジスタのタイムアウトした場合
15	その他	何れにも該当しない場合
50	発信要求拒否	発信できない場合
52	システム不一致	システムパラメータが一致しない場合
53	故障	故障中の場合
54	応答無し	応答しない場合
55	使用中	通信中 / 位置登録中の場合
60	アダプタ間誤り訂正不一致	1. PIAFS同期要求に対し、応答がない場合 2. PIAFSのネゴシエーションに失敗した場合
61	PIAFS異常終了	PIAFSのデータリンクが正常切断以外の理由により開放された場合
71	ER断	発信中または通信中にER信号オフを検出した場合
72	発信中のキー入力による切断	発信中または通信中でPIAFS同期確立中に、子機からの正常切断により呼が切断された場合
73	リスタート	子機がリスタートした場合

6-5. RC35 をバージョンアップする

添付CD-ROM『AtermRC35ユーティリティ集』に収録されている『RC35らくらくバージョンアップ』を使うと、RC35をバージョンアップし、新しい機能を追加することができます。

バージョンアップできるのはWindows95/Windows98/Windows2000を搭載しているパソコンにRC35を接続している場合です。WindowsCE搭載のモバイルギアではバージョンアップできません。

らくらくバージョンアップのインストール

添付CD-ROM『AtermRC35ユーティリティ集』に収録されている『RC35らくらくバージョンアップ』をパソコンにインストールします。

Windows98を例に説明します。お使いの環境によっては手順や画面が異なることがあります。

- 1 パソコンを起動し、RC35をPCカードスロットに取り付けます。
- 2 添付CD-ROM『AtermRC35ユーティリティ集』をパソコンにセットします。

「AtermRC35ユーティリティ集」のメニュー画面が表示されます。

すでにCD-ROMがセットされていた場合は、いったんCD-ROMを取り出してから再度セットしてください。

CD-ROMをセットしてもメニュー画面が表示されないときは「ファイル名を指定してインストールする」(P.168)を参照してください。

- 3 RC35らくらくバージョンアップ ボタンをクリックします。



[AtermRC35らくらくバージョンアップインストーラ]画面が表示されます。

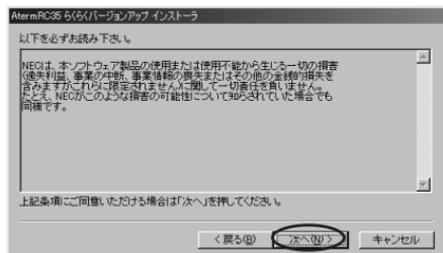
- ④ [次へ] ボタンをクリックします。



- ⑤ [次へ] ボタンをクリックします。

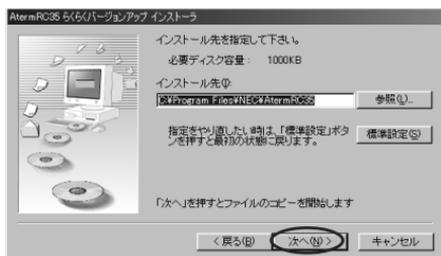


- ⑥ 画面に表示されている内容を読んでから [次へ] ボタンをクリックします。



- ⑦ らくらくバージョンアップのインストール先を指定します。表示されているインストール先でよければそのままにします。変更する場合は [参照] ボタンをクリックし、インストール先を指定します。

- 8 **次へ** ボタンをクリックします。



「インストールが完了しました。」と表示されます。

- 9 **完了** ボタンをクリックします。



「READMEの表示」を にしておくと、メモ帳が起動してらくらくバージョンアップについての説明が表示されます。内容を確認したらメモ帳を終了します。

- 10 「AtermRC35 ユーティリティ集」のメニュー画面の **終了** ボタンをクリックします。

AtermRC35 ユーティリティ集のメニューが終了します。

- 11 CD-ROM ドライブのアクセスランプが消えたのを確認し、CD-ROM を取り出します。



お願い

らくらくバージョンアップは NEC が独自に提供するサービスであり、すべての機能をバージョンアップで対応することを保証するものではありません。
ファームウェアをダウンロードする際の通信費用はお客様の負担になりますので、あらかじめご了承ください。

ファイル名を指定してインストールする

CD-ROMをセットしても「AtermRC35ユーティリティ集」のメニュー画面が表示されないときは、以下の手順でインストールを実行してください。

- ① **スタート** [ファイル名を指定して実行] を選択します。
[ファイル名を指定して実行] 画面が表示されます。

- ② 「名前」に半角文字で次のように入力します。

Q:¥UTIL¥RC35¥Setup.exe

CD-ROM ドライブ名を指定



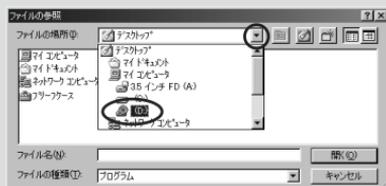
- ③ **OK** ボタンをクリックします。
らくらくバージョンアップのインストールがはじまります。



CD-ROMのドライブ名はパソコンによって異なります。ドライブ名がわからないときは、次の操作でCD-ROMドライブを確認します。

- ① [ファイル名を指定して実行] 画面で **参照** ボタンをクリックします。
[ファイルの参照] 画面が表示されます。

- ② 「ファイルの場所」の **▼** をクリックし、CD-ROMドライブを選択します。



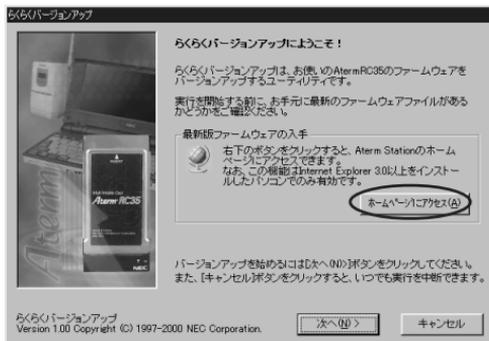
- ③ ドライブ名を確認したら **キャンセル** ボタンをクリックします。

バージョンアップの実行

RC35の不揮発性メモリに記憶されているプログラムをファームウェアとい
います。『RC35らくらくバージョンアップ』を使ってAtermのホームペ
ージから最新のファームウェアをダウンロードし、RC35をバージョンアップ
します。

Windows98を例に説明します。お使いの環境によっては手順や画
面が異なることがあります。

- ① ほかのアプリケーションを使用しているときは、そのアプリケーション
を終了します。
- ② **スタート** [プログラム] [AtermRC35らくらくバージョンア
ップ] [RC35らくらくバージョンアップ] を選択します。
[RC35らくらくバージョンアップ]画面が表示されます。
- ③ **ホームページにアクセス** ボタンをクリックします。



プロバイダに接続してブラウザソフトが起動し、自動的に[AtermStation]
画面が表示されます。

- ④ AtermStationのバージョンアップメニューからRC35用ファーム
ウェアを選択し、画面の指示に従います。
- ⑤ ダウンロードしたファイルを保存する場所を指定します。
ファイルを保存する場所はメモするなどして記録しておいてください。
ファイルがダウンロードされ、パソコンに保存されます。

- 6 ボタンをクリックします。
- 7 [ファイル] [終了] を選択し、ブラウザソフトを終了します。
- 8 タスクトレイの[ダイヤルアップネットワークモニタ]アイコンをダブルクリックし、 ボタンをクリックして回線の接続を切断します。
[らくらくバージョンアップ]画面にもどります。
- 9 ボタンをクリックし、らくらくバージョンアップを終了します。
- 10 ダウンロードしたファイルを確認します。
ダウンロードしたファイルは自己解凍形式で圧縮されています。ダブルクリックすると解凍できます。
解凍後のファイル名と保存場所をメモするなどして記録しておいてください。
- 11 再度 [プログラム] [AtermRC35らくらくバージョンアップ] [RC35らくらくバージョンアップ] を選択し、RC35らくらくバージョンアップを起動します。
[RC35らくらくバージョンアップ]画面が表示されます。
- 12 ボタンをクリックします。
RC35に記憶されている現在のファームウェアのバージョンが表示されます。
- 13 ボタンをクリックします。



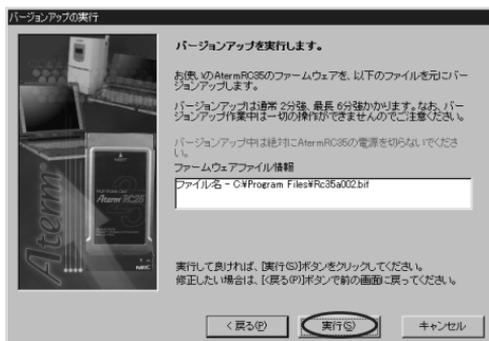
[ファームウェアファイルの指定]画面が表示されます。

- 14 **参照** ボタンをクリックし、ダウンロードしたファイルを指定します。



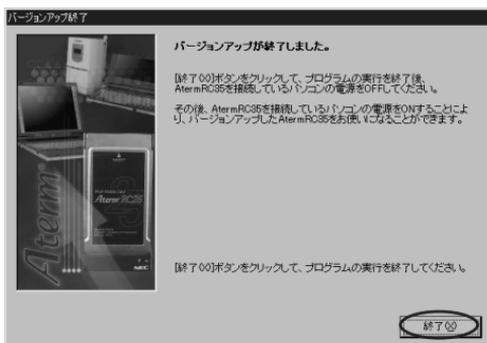
- 15 **次へ** ボタンをクリックします。
バージョンアップするファームウェアの情報が表示されます。

- 16 **実行** ボタンをクリックします。



[バージョンアップ終了] 画面が表示されます。

- 17 **終了** ボタンをクリックします。



- 18 P.21 または P.63 を参照して、RC35 を PC カードスロットから取り出します。

- 19 もう一度 RC35 を PC カードスロットに取り付けます。
バージョンアップしたファームウェアが使用できるようになります。



RC35 にすでに記憶されているファームウェアのバージョンより古いバージョンのファームウェアをインストールしようとすると警告が表示されます。



バージョンアップの途中でエラーが発生した場合は処理を中断し、らくらくバージョンアップを再起動してはじめてやり直してください。RC35 用以外のファームウェアを RC35 で使用することはできません。また RC35 用のファームウェアをその他の機種で使用することもできません。あやまってバージョンアップを実行すると、正しく動作しなくなります。

6-6. RC35 仕様

項目	諸元および機能	備考				
公衆	適用回線	デジタル移動通信網 (NTT DoCoMo)				
	通信規格	RCR STD-27 準拠				
	接続電話機	NTT DoCoMo 携帯電話 デジタル方式 (800MHz・ドッチーモを含む) シティホン (デジタル1.5GHz) 9600bps データ通信対応機種	接続には添付のケーブルを使用 パケット通信は不可			
	通信速度	9.6kbps				
自営	適用回線	親機により回線接続 WM56時: 加入回線 IW50/D時: INS ネット64				
	無線通信	RCR - STD28 (3版) 準拠 PIAFS2.0版 (64/32)	64kbps 接続時無線 実効速度: 58.4kbps 32kbps 接続時無線 実効速度: 29.2kbps			
	通信速度	親機WM56の場合 64kbps 接続時実効速度最高56kbps 32kbps 接続時実効速度最高29.2kbps 親機IW50/Dの場合 64kbps 接続時実効速度最高58.4kbps 32kbps 接続時実効速度最高29.2kbps	AtermWM56の通信 速度は回線の状況により異なる WX1、IW60シリーズ の場合は32kbps 接続 のみ			
エラー訂正	PIAFS2.0版					
データ圧縮/伸長	V.42bis					
接続端末	PCMCIA2.1/JEIDA V4.2以降に対応したPCカードスロットを搭載したWindows95/Windows98/Windows2000が動作するパソコン WindowsCE H/PC Pro3.0に対応した対応NECモバイルギア : MC-R700, MC-R520, MC/R320の各機種	平成12年3月時点の 確認機種				
端末速度	非同期: 2.4/4.8/9.6/19.2/38.4/57.6/115.2 (kbps)					
外形寸法	約109.6(W)×54.0(D)×9.3(H)mm	突起部除く				
質量	約0.05Kg					
電源	DC5V±0.5V	接続端末より供給				
消費電力	約630mW以下	使用状況により変動				
動作環境	温度0~40度 湿度10~90%	結露しないこと				
技術基準 適合認定	認証番号 <table border="1" style="display: inline-table; vertical-align: middle;"><tr><td>T</td><td>A00-0069JP</td></tr><tr><td>R</td><td>IZAA0043</td></tr></table>	T	A00-0069JP	R	IZAA0043	
T	A00-0069JP					
R	IZAA0043					

「」使用の前に

Windows95/Windows98
をお使いの方は

Windows2000
をお使いの方は

WindowsCE
をお使いの方は

困ったときには

付
録

6-7. 用語集

A ~ Z

AT (エーティー) コマンド

米ヘイズ・コンピュータ・プロダクツ社によって開発されたモデムを制御するためのコマンド(命令)。このコマンドと互換性のあるモデムは、モデムに接続したパソコンなどの機器から設定内容を制御することができる。

bps (ビーピーエス)

Bit per second の略。1 秒間に送信できるビット数を表す通信単位。

COM (コム) ポート

Communication port の略。RS-232Cとも呼ばれる。モデムなどを接続し通信をおこなうためのシリアルインタフェース。

DNS (ディーエヌエス)

Domain name system の略。IP アドレスを検索し取得するためのシステム。

ID (アイディー) 登録

無線機能を備えたワイヤレス子機(マルチモバイルカードやリモートステーション)をワイヤレスシリーズ親機に増設登録すること。

IP (アイピー) アドレス

インターネットに接続できるアドレスの総称。電子メールなどの受発信地を特定するためのインターネット上の番地。

PCMCIA/JEIDA

(ピーシエムシーアイイー/ジェイダ)

日本とアメリカの企業によって作られたPCカードの規格を決定している団体。

PDC

Personal Digital Cellular の略。デジタル携帯電話のこと。

PIAFS (ピアフ)

PHS Internet Access Forum Standard の略。高品質のデータ通信方式の開発のために標準化された規格。

TCP/IP (ティーシーピーアイピー)

大学や研究機関などのネットワーク用に開発された通信プロトコル。TCPとIPの2つのプロトコルを組み合わせたもので、インターネット上の通信の基本となっている。

URL (ユーアールエル)

Uniform Resource Locator の略。インターネット上に置かれているホームページなどの位置を特定するための記述方法。一般的にホームページ(Web)アドレスと呼ばれるものは、その一例。

V.42bis データ圧縮

通信関係の規格を認定するITU(International Telecommunication Union/国際電気通信連合)に登録されている圧縮方法。

WindowsCE

Microsoft社が開発した携帯情報端末用OS(Operating System)。操作はWindows95と似ているが、専用のアプリケーションが付属しファイル容量はコンパクトに設計されている。WindowsCEを搭載したマシンを「ハンドヘルドPC」と呼ぶ。

WWW(ダブリュダブリュダブリュ)

World Wide Webの略。HTMLなどのタグ付きテキストを共通の表現手段にして、各ネットワーク間をアクセス可能にしたネットワークシステム。

あ行

アクセスポイント

プロバイダまたはパソコン通信サービス業者に接続するための中継地点または電話番号。

さ行

自己解凍形式

圧縮ファイルにそのファイルの解凍プログラムを組み込んで圧縮すること。圧縮ファイルが自動的に解凍するので、解凍プログラムがなくても解凍できる。

た行

ダイヤルアップ

アナログ電話網、INSネット64などの公衆網を使ってインターネットに接続すること。

デジタル移動通信網

携帯電話専用の移動通信網。

デュアルリンクワイヤレス通信

NEC独自の通信方式。リモートステーションのデータポートに接続されたパソコンから無線2チャンネルを使って最大64kbpsの高速データ通信が可能。ワイヤレスシリーズ親機とリモートステーションのデータポート間の内線データ通信およびプロトコル変換モード(非同期/同期PPP変換)によって、インターネットのアクセスポイントとも簡単に接続できる。

同期

データ伝送において、送信側と受信側の間でタイミングを合わせること。

は行

パスワード

ユーザIDを他人に利用されないように、ユーザ本人が設定する文字や数字などの総称。ユーザIDがネットワーク上に公開される名前とすると、パスワードはユーザIDの利用者が本人であることを特定するための暗号。

ファームウェア

Atermに内蔵されているフラッシュメモリ(不揮発性メモリ)に書き込まれるソフトウェアのこと。新しいバージョンのファームウェアを書き込むと、新機能を使用できるようになる。

プリインストール

パソコンのハードディスクにあらかじめプログラムがインストールされていること。

ブラウザソフト

大規模なデータ群から目的のデータを検索・表示するためのソフトウェアの総称。WWWではInternet Explorer(インターネットエクスプローラ)、Netscape Navigator(ネットスケープナビゲータ)がよく知られている。

プロトコル

コンピュータでデータ通信を行うために必要な規約の総称。

プロトコル変換モード

PHS データ端末やリモートステーションからの32kbps また64kbps PIAFS データをAterm でいったん終端して、通信相手のモードに合わせて、非同期データまたは同期データに変換するモードのこと。通常のターミナルアダプタやPIAFSでは対応していないアクセスポイントと通信ができる。

プロバイダ

インターネットへの接続を代行する会社の総称。正式にはネットワーク・サービス・プロバイダ。ユーザはダイヤルアップまたは専用回線でプロバイダに接続し、インターネットへ接続する。

や行

ユーザID

ユーザを識別するための文字や数字などの組み合わせの総称で、ネットワーク上の名前のようなもの。ユーザIDを他人に利用されないためにパスワードと併わせて利用される。

ら行

リモートステーション

Atermシリーズ親機の子機として増設されるAtermのことで、PHSと合わせて最大6台まで増設登録できる。この機能を使えばAtermどうしでワイヤレス通信が可能になるので、離れた場所の電話機やパソコンを無線で使うことができる。

索引

A

- Administrator 65, 72
AtermRC35 ユーティリティ集
..... 16, 22, 35,
39, 65, 77
AtermStation 14, 58, 99,
112, 120,
169
Aterm についてのお問い合わせ
..... 119
AT コマンド 142, 174
構成 143
使い方 142

B

- BIGLOBE 42, 80
BIGLOBE インフォメーションダイヤル
..... 表 3
BIGLOBE カスタマーサポート
..... 表 3
bps 174

C

- CD-ROM 16
COM ポート 174

D

- DNS 174

F

- FAX 情報サービス 121

I

- ID 登録 174
Internet Explorer 15, 58, 59,
99, 111
IP アドレス 106, 174

L

- LED ランプの表示 18

M

- Microsoft ネットワーククライアント
..... 31

N

- NEC サービスステーション (SS)
..... 124
NEC パーソナルコミュニケーション
インフォメーションセンター
..... 表 4, 119
Netscape Navigator 15, 58, 99

O

- Outlook Express 15, 59

P

- PCMCIA 20, 62, 102,
174
PC カードスロット 20, 62, 102
PC カードスロット接続コネクタ
..... 17
PC クリーンスポット 表 4, 127
PDC 47, 85, 174
PDC 用クイックナンバー ... 47
PIAFS 174
PIAFS スルーモード 14, 51, 91,
107

Q

Q&A 114

R

RC35 接続コネクタ 18

S

S142 レジスタ 159

S レジスタ 144

T

TCP/IP 31, 174

U

URL 174

V

V.42bis データ圧縮 174

W

Windows2000 61

Windows95 19, 25

Windows98 19, 22

WindowsCE 101, 175

WWW 175

あ

アクセスポイント 175

アダプタ切断理由 164

新しいハードウェア 26

アナログ AP 47

アフターサービス 122

安全に正しくお使いいただくために
..... 2

い

インターネットに接続する
..... 15, 55, 96

インフォメーションサービス
..... 表 4, 119

お

親機経由でインターネットに接続する
..... 10, 42, 80

親機経由で使うには 14, 80

親機の選択 132

親・子機間通信 13, 133

か

各部の名前とはたらき 17

き

基地局 12

け

携帯電話でインターネットに接続する
..... 12, 46, 84

携帯電話接続ケーブル 16, 18

携帯電話接続コネクタ 18

携帯電話を接続して使う .. 14

ケーブル接続コネクタ 17

現地調整 122

こ

交換機	12
子機間通信	13, 133
コマンド	143

し

自己解凍形式	170, 175
システム番号の設定	132
仕様	173

せ

接続	20, 62, 102
接続コネクタ	18
接続の確認	55, 96
接続リザルトコード	160

そ

増設登録	14, 132
------------	---------

た

ダイヤルアップ	175
ダイヤルアップアダプタ ..	31
ダイヤルアップサーバーの種類	53
ダイヤルアップネットワーク	28

つ

通信速度	11
------------	----

て

できること	10
デジタル移動通信網	12, 173, 175
デバイスドライバウィザード	25
デュアルリンクワイヤレス通信	175
電子メールソフト	15

と

同期	175
同期 AP	42, 80
ドッチーモ	12, 173
取り付け	20, 62, 102
取り外し	21, 63, 103

な

内線データ通信	13, 133
---------------	---------

ね

ネットワークとダイヤルアップ接続	87
ネットワークの設定	28, 104
ネットワークプロトコル ..	31

は

ハイパーターミナル	139
パケット通信	12
箱の中身	16
パスワード	175
発信のしかた	134

ひ

日ごろのお手入れ	5
----------------	---

ふ

- ファームウェア 169, 175
- ファイル名を指定してインストールする
..... 39, 77, 168
- ブラウザ 15
- ブラウザソフト 176
- ブラウザソフトのアイコン .. 59
- プリインストール 175
- フロッピーディスク 16
- プロトコル 176
- プロトコル変換モード 14, 51, 91,
107, 176
- プロバイダ 15, 176
- プロバイダの設定 49

ほ

- 訪問サービス 表 4, 128
- 訪問サポートサービス 128
- ホームページを見る 58, 99, 111
- 保守 122
- 保証書 16
- 本書について 6
- 本体 16, 17

ま

- マルチモバイルカード 10

む

- 無線区間速度 51
- 無線ポートの設定 14

も

- 網切断理由 163
- 持ち込み修理先 124
- モデム情報ファイル 16, 22, 65
- モバイルギア 11, 103

ゆ

- ユーザID 176

よ

- 用語集 174

ら

- らくらくウィザード
 - インストール 35, 73
 - 使わないで設定 49, 87
 - 設定 35, 40, 72,
78
- らくらくバージョンアップ ... 165
 - インストール 165
 - 実行 169

り

- リザルトコード 162
- リモートステーション 13, 133
- リモートネットワークの設定
..... 104

わ

- ワイヤレスシリーズ親機 .. 10, 132
- ワイヤレスターミナルアダプタ
..... 10
- ワイヤレスモデム 10
- ワイヤレス接続 10

Memo

Memo

Memo

Memo

ご注意

掲載されているお問い合わせ先、修理受付窓口などは変更されている場合があります。

最新の情報は、本マニュアルが掲載されているページの  必ずお読みください「お問い合わせ・アフターサービス(PDF)」を参照してください。

ご注意

掲載されているお問い合わせ先、修理受付窓口などは変更されている場合があります。

最新の情報は、本マニュアルが掲載されているページの  必ずお読みください「お問い合わせ・アフターサービス(PDF)」を参照してください。



この取扱説明書は、エコマーク認定の再生紙を使用しています。